

熊本大学教育学部附属小学校
における組織評価
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日
19 教育学部附属小学校

目次

I	熊本大学教育学部附属小学校の現況及び特徴と目的.....	3
II	その他の領域に関する自己評価（教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画）	6
	1. その他（教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画）の領域の目的と特徴.....	7
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	8
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	8
	4. 質の向上度の分析及び判断	44
III	管理運営の領域に関する自己評価.....	46
	1. 管理運営の目的と特徴	47
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	48
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	48
	4. 質の向上度の分析及び判断	92

I 熊本大学教育学部附属小学校の現況及び特徴と目的

1 現況

(1) 学校名：附属小学校

(2) 児童数及び教員数（平成 26 年 9 月 1 日現在）

：児童数 680 人、教員数 25 人、非常勤教員数 3 人、事務職員数 2 人

2 特徴

(1) 教育実習の実施校

本校は国立大学法人の附属小学校として、教育学部学生の教育実習を実施するという使命がある。そのため、教育学部の 2 年生～4 年生の教育現場実習を実施する体制が教育学部との連携のもとに整えられている。

(2) 先導的な教育研究の実施校

本校は国立大学法人の附属小学校として、教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその科学的実証を行うとともに、公立学校への教育協力と情報提供を行うという使命がある。そのため、年間通して授業をもとにした研究実践を行い、その成果を年度末に研究発表会を開催して全国に発信している。また、公立学校の校内研修や各組織の研究大会に対して、その依頼に応じて本校職員を講師として派遣している。

(3) 本校の職員の人事

上記の使命をもつ本校は、教育に対する情熱と専門的な指導力を有する教員の確保が必要である。本校職員は、校長は教育学部教授が務め、学部と学校の連携を密に図ることができるようになってきている。また、副校長は公立学校における校長経験者が務め、学校経営を行っている。教頭は公立学校における教頭経験者が務め、学校経営の補佐を行っている。主幹教諭は、学内人事により資質・能力に優れた教諭を任命している。教諭及び養護教諭については、熊本県及び熊本市教育委員会との人事交流によって本校に採用となり、本校を退職した後は、熊本県や熊本市の公立学校に採用されることになっている。

(4) 関係機関との連携

本校の使命及び教育目標を達成するために、人事及び学校運営、研究・教育実習の推進において関係機関との連携強化を図っている。

① 専任教員の人事については、熊本県教育委員会や熊本市教育委員会との人事交流である。

② 全国国立大学附属学校連盟及び九州地区国立大学附属学校連盟に属し、情報交換を密にしながら取組の充実を図っている。

③ 教育学部・附属学校連絡協議会等により、学部との連携を緊密にした学校経営を行っている。

(5) 児童の入学条件

① 入学者募集定員は、105 名程度（男子 53 名、女子 53 名）である。（附属幼稚園からの連絡入学者を含む）

② 志願資格は次の通りである。

ア 熊本市に保護者と同居し、そこを生活の本拠地とする者

イ 自宅から徒歩または公共交通機関を利用して、50 分以内で通学できる者

③ 入学者の選考考査を実施し、それに合格した者に入学の許可をする。選考考査の内容は、本校の特質を考慮し、考える力・判断する力・運動する力・話を聞く力・集団で行動するときの態度等に関するものである。

3 組織の目的

(1) 本校の使命

本校は国立大学法人の附属小学校として、次の使命に基づき学校経営及び学校教育を実施する学校である。

① 国立大学法人熊本大学教育学部附属小学校として、初等普通教育を行う。

② 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその科学的実証を行う。

③ 教育学部学生の教育実習を実施し、その指導を行う。

④ 公立学校への教育協力と情報提供を行う。

(2) 本校の教育目標

本校教育が目指す人間像は、主体的・自発性に富み、郷土を愛し、郷土に生きる心を基調として、創造的でしかも個性的に生活を切り拓き、人のため世のために貢献する国際性豊かな人間である。そのために、自主・自立、個性の尊重、郷土愛・人間愛、強い心と体の発達を願い、次の教育目標を設定している。

① 自主・自立の教育

ア 自己の責任において、自分で意欲的に学ぶ意志・能力・態度を育てる。

イ 自らの学習課題・生き方を課題とする教育の推進を図る。

② 個性重視の教育

ア 個人の尊厳性を大事にし、自主的・自発的に取り組む態度を養う。

イ 個性的な創造力、主体的な判断力を培う教育を行う。

③ 自他の尊重の教育

ア 思いやり、尊敬、感謝の心をもち、人のため世のために力を尽くす人間の育成に努める。

イ 勤労体験、自然体験、社会体験を重視し、豊かな知性と生きる力を育成する。

(3) 本校の沿革史

- ・明治 7年10月 熊本市新町に開校
- ・明治26年 5月 熊本市京町本丁に移転
- ・明治45年 4月 女子附属小学校を坪井町に開校
- ・昭和18年 3月 男子部、女子部附属国民学校とそれぞれ改称
- ・昭和24年 5月 男女両附属統合
- ・昭和26年 3月 熊本大学教育学部附属小学校と改称
- ・昭和32年 9月 附属小学校校旗新調並びに校歌制定
- ・昭和37年11月 NHK全国小学校音楽コンクール（合唱）第1位受賞
- ・昭和40年 4月 附属小中学校から附属養護学校分離
- ・昭和41年 3月 体育館並びにプール竣工
- ・昭和45年 3月 給食センター竣工
- ・昭和50年11月 創立100周年記念式典挙行、第1回同窓会開催
- ・昭和58年 7月 新校舎落成
- ・昭和61年 2月 文部省特別研究発表会開催
- ・平成11年 4月 文部科学省研究開発学校指定（～平成13年）
- ・平成16年 4月 国立大学法人熊本大学教育学部附属小学校と改称
- ・平成21年 4月 文部科学省研究開発学校指定（～平成23年）
- ・平成25年 3月 全教室にエアコン設置
- ・平成25年10月 体育館改修工事開始

(4) 研究のあゆみ（研究主題）

- ・昭和38年 プログラム学習による授業改善
- ・昭和39年 プログラム学習の反省と改善点
- ・昭和40年 教育研究方法の科学化
- ・昭和41年 近代化に応える学習指導法の実証的研究
- ・昭和42年 近代化に応える学習指導過程の研究
- ・昭和43年 学習の自主化を進める授業改善の研究（～昭和44年）
- ・昭和45年 創造性を培うための授業改善（～昭和46年）
- ・昭和47年 授業の最適化をめざして
- ・昭和48年 新しい授業のかたち（～昭和50年）
- ・昭和51年 子どもから出発する授業の創造（～昭和54年）
- ・昭和55年 確かに力をつける授業の創造（～昭和57年）

- ・昭和58年 わきたつ学習意欲と授業（～昭和61年）
文部省特別研究委託：小学校教育の改善充実に関する調査研究（昭和59～61年）
- ・昭和62年 21世紀を豊かな心で生きぬく教育を求めて（～平成元年）
- ・平成2年 個性を生かす授業の創造（～平成3年）
- ・平成4年 自己実現を目指す授業の創造（～平成6年）
- ・平成7年 自己実現に向かう豊かな学習（～平成10年）
- ・平成11年 『わたし』を育てる豊かな学び（～平成14年）
文部科学省研究開発学校指定：総合的な学習の時間（平成12～14年）
- ・平成15年 学びが好きになる授業の創造（～平成18年）
- ・平成19年 みんなで伸びる授業をデザインする（～平成21年）
- ・平成22年 ことばの力に培う「みんなで伸びる授業デザイン」（～平成24年）
文部科学省研究開発学校：論理科カリキュラム開発（平成21～23年）
- ・平成24年 豊かな「対話」で広がる創造的な学び

Ⅱ その他の領域に関する自己評価 (教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画)

熊本大学教育学部附属小学校

1. その他（教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画）の領域の目的と特徴

（1）教育研究支援

本校の使命である先導的研究及び教育実習が充実・推進するよう、関係機関との連携を強化しながら次の取組を行っている。

- ① 研究発表会や夏の実践研究会の実施
- ② 教育学部や熊本県・熊本市教育委員会と連携を図った学習指導要領シンポジウムの実施
- ③ 附属小中連絡会の年間4回実施と附属幼稚園や付属特別支援学校との交流会の実施

（2）初等中等教育

本校の教育目標を達成するために、次の点から特色ある教育推進の基盤を整えている。

- ① 本校の使命を達成するための入学者の確保
- ② 特色ある教育課程の編成と確実な実施
- ③ 質の高い授業実践と情報発信

（3）男女共同参画

- ① 体育館への男女更衣室の設置
- ② 女性教員の積極的確保

[想定する関係者とその期待]

- 児童及び保護者、同窓生、地域住民から、高い教育水準が期待されている。
- 熊本県・熊本市教育委員会及び学校現場等の関係者から、今日的教育課題の改善に向けた具体策提示に期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

(1) 教育研究支援

【優れた点】

- 教育及び研究推進の組織体制と職員の意識レベル

【改善を要する点】

- 熊本県・熊本市教育委員会や公立小学校との研究面での連携

(2) 初等中等教育

【優れた点】

- 学校と保護者が一体となった教育活動の実施

【改善を要する点】

- 教育充実のための人材と予算の確保

(3) 男女共同参画

【優れた点】

- ユニバーサルデザインに配慮した施設設備の推進意識の向上

【改善を要する点】

- 男女共同参画の推進体制の整備

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育研究支援

観点 1-1 教育課題

(観念に係る状況)

本校は、附属学校として公立小学校と同じ初等普通教育を行うことに加え、①先導的・実証的研究を行うこと、②その成果を公立学校に情報提供すること、③教育実習を行うことを使命としている。その使命を達成するため、教育の本質を基底とした教育目標を設定し、目指す子ども像と教師像を明確化し、一貫した教育方針のもとで教育を行っている。また、課題をもとに本年度の実践努力事項を設定し、解決に向けた具体策につながるようにしている。これらをもとに教育活動を展開し、毎学期末(3回)に職員による学期反省を実施し、修正を加えながら教育活動の質的な維持・向上につなげている。学年末には、4年生以上の児童及び全保護者に教育活動の評価を依頼し、その結果を分析・検討し、次年度の実践努力目標等に反映させて教育活動に生かしている。(資料E-1-1-1) その実現に向け、組織的・機動的に教育活動を行うために部長制を採用することで、6名の部長が使命感と責任感をもってリーダーシップを発揮できるようにしている。この部長制を機能させるために、月一回の定期部長会及び部会や臨時の打ち合わせ会を実施し、共通理解・共通実践を実現している。(資料E-1-1-2)

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

明確な教育目標のもとに本年度の重点事項を設定し、組織を整えて教育推進がなされている。

(資料E-1-1-1) 学校要覧

(本校の使命・本校の教育目標・目指す子ども像・目指す教師像・重点努力事項)

2 学校の特色と学校経営

1 本校教育の使命

- (1) 国立大学法人熊本大学教育学部附属小学校として、初等普通教育を行う。
- (2) 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその科学的実証を行う。
- (3) 教育学部学生の教育実習を実施し、その指導を行う。
- (4) 公立学校への教育協力と情報提供を行う。

2 本校の教育目標

- (1) 自主・自立の教育
- (2) 個性重視の教育
- (3) 自他の尊重の教育

3 学校経営の基本方針

本校教育の使命と教育の目標を達成するため、人間尊重の精神を基底におき、校長を中心とした全教職員が教育愛と使命感に燃え、一致協力して21世紀を切り拓く人材を育成し、創意に満ちた自主性あふれる学校の実現に努める。

〈めざす学校像〉

- (1) 教育課程の理念や趣旨を正しくとらえ、本校教育の使命と責務を自覚し、教育活動の充実を目指し、教育成果の向上に努める学校
- (2) 学校運営組織を整え、組織としての責任体制、指導体制を確立し、学校運営の合理化、能率化を推進する学校
- (3) 児童と教職員が生き生きと活動し、自発的精神に満ちた、明るい挨拶と思いやりにあふれた学校
- (4) 教職員間、教職員と児童、教職員と保護者間の民主的で望ましい人間関係を育み、相互信頼の雰囲気を醸成するとともに、明るく健全な校風の樹立に努める学校
- (5) 保護者と教職員が一体となり、児童の豊かな教育活動を支援し、教育環境を整え、地域社会との連携を図りながら、開かれた学校の実現に努める学校
- (6) 大学・学部との連携を深め、教育研究、教育実習の充実に努める学校

〈めざす児童像〉

- ◇明るい子 ○仲良く協力し合って、ともに伸びる子ども
 - 学校のきまりや生活のマナーを守り、勤労を尊び、感謝や尊敬の気持ちをもった心豊かな子ども
- ◇強い子 ○心身ともに健康でねばり強い心をもった子ども
 - 自覚と責任をもって最後までやり遂げる子ども
- ◇考える子 ○確かな学力を身につけ、進んで課題に取り組み、科学的に追求し、自分の考えをもち、新しい時代を創造する子ども
 - 豊かな感性をもち、自然や郷土及び日本を愛する心情をもった子ども

〈めざす教職員像〉

- (1) 公平・誠実に子どもに接し、子どものよさや可能性を拓き、達成感、成就感を与えられる教職員
- (2) 自らの品位と礼節を高め、より高い専門性と資質を身に付けるための研修と修養に努めるとともに、大学・学部と協力し、教育理論、授業理論の確立を図る教職員
- (3) 本校の伝統を踏まえ、更なる飛躍を目指した教育活動の推進に努め、スマートで活みなぎる校風を築く教職員

〈めざす子ども像の具現化〉

学 年	明るい子	強い子	考える子
低 学 年	【挨拶】 ・ 元気に明るく挨拶ができる。 【協調性】 ・ 友達と仲良く頑張ることができる。	【体力】 ・ 外遊びを好み、運動に親しむことができる。 【我慢強さ】 ・ 最後まできちんとやり遂げることができる。	【探究心】 ・ 自分なりの考えをもつことができる。 【判断力】 ・ きまりを守り、安全に生活することができる。
中 学 年	【挨拶】 ・ 礼儀正しく挨拶ができる。 【協調性】 ・ 相手の気持ちを考え、協力することができる。	【体力】 ・ 病気や怪我に負けない強い体をつくることができる。 【我慢強さ】 ・ 目標に向かってねばり強く頑張ることができる。	【探究心】 ・ 相手に分かるように、自分の考えを表現することができる。 【判断力】 ・ マナーやきまりの必要性や意味を考え、行動することができる。
高 学 年	【挨拶】 ・ 場に応じた挨拶ができる。 【協調性】 ・ 互いのよさを認め合いながら、支え合うことができる。	【体力】 ・ 体力向上を目指して、継続的な運動に頑張ることができる。 【我慢強さ】 ・ 自覚や責任をもって最後までやり遂げることができる。	【探究心】 ・ 話し合いを通して、共によりよい考えを生み出していくことができる。 【判断力】 ・ 自分が何をすべきかを考え、判断して行動することができる。

4 本年度の実践努力事項

(1) 特色ある教育課程の編成と推進

- ① 学習指導要領による学習の展開と特色ある教育活動の工夫を行う。
- ② 「思考力・表現力の育成」に資する実践的な研究を推進する。
- ③ 創意工夫した年間指導計画を作成する。
- ④ 学校の活性化に向けた学校運営組織を結成する。
- ⑤ 特色ある学校、開かれた学校づくりに努める。
- ⑥ 学校評議員制度を充実させ、学校の活性化を図る。

(2) 確かな学力の充実

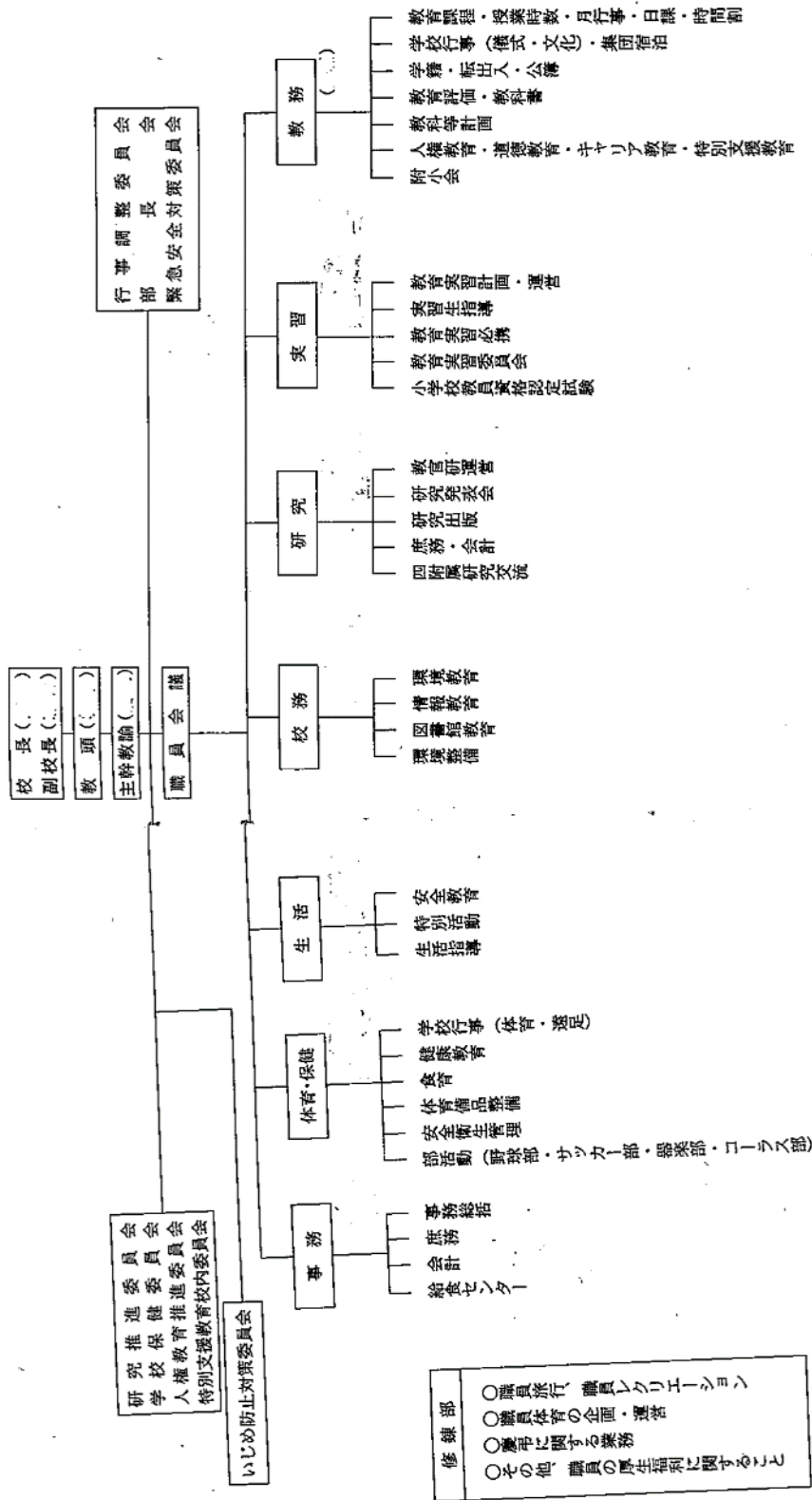
- ① 授業時数の確保と授業の充実を図る。
- ② 基礎的・基本的事項の定着、言語活動の充実を図る。
 - ・ 基礎的・基本的指導内容の精選と重点指導
 - ・ 個に応じた指導方法の工夫
 - 一部教科担任制の導入 一部複数指導体制 個別指導の推進

- ・評価活動の工夫
 - ③ ICT教育の推進を図る。
 - ④ 外国語活動の充実を図り国際理解教育の推進に努める。
 - ⑤ 情報館、読書館の活用を図り読書活動の推進に努める。
 - ⑥ 読書、音楽、スポーツ、集会、作業等のさわやかタイムの充実を図る。
- (3) 自主・自立の教育の推進
- ① 社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。
 - ・自ら学習課題を見付け、進んで課題解決に取り組む力を身に付ける学習の推進
 - ・自主的な学習習慣や態度を身に付ける授業展開の工夫
 - ② 体験的な学習を推進する。
 - ・自然体験、社会体験学習の充実
 - ・勤労生産活動の充実
 - 野菜パーク、教材園の有効活用 農具・用具の充実と管理の徹底
 - 奉仕的活動の推進
- (4) 個性重視の教育の推進
- ① 児童の個性的な創造力、発想力を引き出し、一人一人に応じた指導の充実を図る。
 - ② 児童の主体的判断力を培う教育を推進する。
 - ③ 児童の自主性・主体性を重視した特別活動を展開する。
 - ・学級活動の充実 ・児童会活動の充実 ・委員会活動の充実
 - ・集会活動の工夫 ・スモールコミュニティー活動の推進
- (5) 自他の尊重と心の教育の推進
- ① 道徳教育の充実を図る。
 - ・心を揺さぶり、心に響く授業の展開 ・日常指導の点検と充実
 - ② 人権教育の充実を図る。
 - ・基本的認識の確立 ・不登校児童や配慮を要する児童への教育的配慮による指導
 - ・かけがえのない「命」を大切にする指導
 - ③ いじめ防止等の対策を強化する。
 - ・「熊本大学教育学部附属小学校いじめ防止基本方針」（以下「本校の基本方針」）の策定
 - ・本校の基本方針の共通理解と啓発
 - ・本校の基本方針をふまえた具体的な取組の推進
 - ・学部との連携による「いじめ防止対策委員会」の設置
 - ④ 生活（生徒）指導の充実を図る。
 - ・早期発見、早期対応（教育相談の実施、児童との交流、関係機関との連携）
 - ・学校生活の基本的ルールの指導徹底（挨拶、整理整頓、廊下歩行、名札着用）
 - ・社会生活の基本的ルールの指導徹底（バス利用のマナーとルール、登下校のきまり）
 - ⑤ 健康教育の推進を図る。
 - ・学校保健委員会の充実

- ・体力の増進（体育授業の充実、全体体育の充実） ・健康観察と保健指導の充実
- ・食育指導の充実 ・健全な部活動の推進
- ⑥ 安全教育の徹底を図る。
 - ・登下校時の安全（防犯ブザーの携帯、名札の使い方の徹底、保護者との連携）
 - ・交通安全、生活安全、防犯意識の高揚
 - （安全点検の実施と修理、薬品管理の徹底、授業中の事故防止）
 - ・不審者対応避難訓練、火災・地震・水防避難訓練の実施
 - ・事故発生時の緊急連絡体制の強化
- ⑦ 国際理解教育の推進を図る。
 - ・日本の伝統文化の体験 ・異文化体験 ・外国語活動の充実
- (6) 教育環境の整備と活用
 - ① 潤いのある環境づくりと安全管理に努める。
 - ・学校緑化の推進（奉仕作業、農園整備と活用、委員会活動の活性化、学級花壇の活用、農具・用具の整備）
 - ・掲示教育の推進（学校・学年掲示板の活用、掲示物の工夫）
 - ・運動場の整備と活用（施設の点検と整備、設備の充実、遊具の充実）
 - ② 教育機器の整備に努める。
 - ・校内放送の整備
 - ・コンピュータの活用と整備 ・教育機器の充実
 - ③ 言語環境の充実
 - ・子どもに語りかける掲示の工夫 ・教職員の適切な言葉の励行
- (7) 附属学校園との連携推進
 - ① 附属小中連絡会の充実と具体的連携活動の実施
 - ② 四附属合同研修会の実施
 - ③ 附属幼稚園及び附属特別支援学校との交流活動の推進
- (8) 熊本県及び熊本市の教育委員会との連携推進
 - ① 教育学部・附属学校連携事業等を通じた、熊本県及び熊本市の教育委員会との連携推進
 - ② 熊本県及び熊本市の教育課題を強く意識した研究・実践の推進と情報提供
- (9) P.T.A、地域との連携推進
 - ① P.T.A活動との連携を深める。
 - ・家庭との連携の推進と信頼関係の構築
 - ・家庭訪問・懇談会の充実
 - ② 地域との連携を図る。
 - ・地域活動への積極的参加（地域子ども会、町内会活動、防犯活動）
 - ・地域との交流促進（隣接校との交流、学校評議員制度の充実）

（出典：学校要覧）

組織



(出典：学校要覧)

観点1-2 大学・学部との連携

(観点に係る状況)

教育学部では、新学習指導要領改訂の趣旨を具体化するために、熊本市教育委員会共催・熊本県教育委員会後援のもと、平成22年度に第1回目の新学習指導要領シンポジウムを開催した。本校も教育学部の附属小学校として、教科等分科会や全大会において研究の成果や授業実践を報告している。5年目の本年度は、これまでの研究の成果を教育学部主導のもと、熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・附属学校園が共同で研究図書を出版することになっている。(資料E-1-2-1)

また、本校は毎年1回、初等教育研究発表会を開催し、1年間の研究について公開授業や教科等分科会において、成果と課題を報告している。毎年1000名を越える参観者がある本校研究発表会において、教科等分科会の助言者を教育学部の教授や准教授に依頼して指導を仰いでいる。(資料E-1-2-2)

これらの取組により、毎年、県下の公立小学校の校内研修に本校教諭が講師として招かれている。また、毎年、全国の小中学校の先生や教育委員会指導主事等の1000名を越える参加者がある本校研究発表会のアンケートには次のような記述が数多く見られる。

- ・こんなに素晴らしい実践を拝見させていただき大変感謝します。自分ももう少し頑張らねばと思います。
- ・附属小の挑戦、大変勉強になります。根拠一理由付け一主張による対話の研究の推進を来年も期待しています。来年もきます。

教育実習においては、副校長が教育実習連携の会議に出席し、教育実習の方向性やカリキュラムについて、情報交換及び協議を行っている。また、実習委員会に本校の実習部長が出席し、年間の予定や内容等について、教育学部と担当者と綿密に打ち合わせを行っている。これをもとに、本校の実習部が主体となって年間の詳細な実習計画を作成し、意図的・計画的な教育実習を実施している。(資料E-1-2-3)) 教育実習終了後は、実習生の日録やアンケート及び職員の実習の反省アンケートをもとに、実習部が主体となって見直しと改善を行い、次の教育実習に生かすようにしている。(資料E-1-2-4)

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

研究や教育実習において、教育学部と連携を密に図り、それをもとに校内において組織的・計画的な推進が行われている。

(資料E-1-2-1) 学習指導要領キックオフシンポジウム実施計画

シンポジウム
学習指導要領キックオフ第5弾!
論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発
—教科間連携、幼・小・中連携を視野に入れて—

- ◆開催日時
平成27年3月7日(土) 12:30~17:00
- ◆会場
熊本大学工学部百周年記念館
熊本大学工学部2号館
- ◆主催
熊本大学教育学部
- ◆共催 熊本市教育委員会
- ◆後援 熊本県教育委員会

- ◆対象
熊本県内の国・公・市立学校の教職員、幼稚園教諭、大学関係者、学生など
- ◆入場
無料
- ◆定員
250名(定員になり次第締め切らせていただきます)
- ◆プログラム
分科会 12:30~14:30
熊本大学教育学部教員と附属学校園教員による提案
(本年度も公募)
- 開会行事 14:45~15:10
 主催者挨拶 熊本大学教育学部長 登田龍彦
 挨拶 熊本大学長 谷口功
 連携リーダー挨拶 熊本大学教育学部教授 河野順子
 講演① 熊本県教育委員会 15:10~15:30
 講演② 熊本市教育委員会 15:30~15:50 杉原哲郎教育次長
 総括講演 16:00~17:00
 文部科学省から
 謝辞 熊本大学教育学部副学部長 堀畑 正臣
- ◎総合司会(熊本大学教育学部附属小学校副校長 志波典明)
 【お問い合わせ先】
 熊本大学教育学部総務事務
 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号熊本大学教育学部
 Tel.096-342-2514 FAX 096-342-2510
 Eメール kawano@educ.kumamoto-u.ac.jp

(出典：学習指導要領キックオフシンポジウム実施計画)

(資料E-1-2-2) 助言者一覧 (教育学部関係)

【助言者】

大学名	役職	氏名	分科会
熊本大学教育学部	教授	堀畑 正臣	国語(中)
熊本大学教育学部	准教授	藤瀬 泰司	社会(高)
熊本大学教育学部	准教授	竹中 伸夫	社会(中)
熊本大学教育学部	教授	平峰 豊	算数(高)
熊本大学教育学部	教授	山本 信也	算数(低)
熊本大学教育学部	教授	福島 和洋	理科(高)
熊本大学教育学部	准教授	飯野 直子	理科(中A)
熊本大学教育学部	准教授	渡邊 重義	理科(中B)
熊本大学教育学部	教授	中山 玄三	生活
熊本大学教育学部	准教授	山崎 浩隆	音楽
熊本大学教育学部	教授	緒方 信行	図画工作
熊本大学教育学部	准教授	八幡 彩子	家庭
熊本大学教育学部	教授	坂下 玲子	体育(中)
熊本大学教育学部	准教授	小澤 雄二	体育(高)
熊本大学教育学部	教授	八幡 英幸	道德
熊本大学教育学部	教授	松田 芳子	保健
熊本大学教育学部	シニア 准教授	瀬口 久美代	保健
熊本大学教育学部	准教授	ピダーソン ・スタンリ ・クレランス	外国語

(出典：学習指導要領キックオフシンポジウム実施計画)

(資料E-1-2-3) 教育実習計画

平成26年度 教育実習関係日程表

実習委員会資料
平成26年4月2日

【1年次】

1年次実習(I)		
8月6日(水)	半日	教育実習オリエンテーション(全課程)
1年次実習(II)		
2月17日(火)	1日	教育実習オリエンテーション(全課程)

【2年次】

2年次実習(I)			
9月2日(火)	半日	教育実習オリエンテーション(全課程)	
2年次実習(II)			
9月5日(金)～9月25日(木)	1日	附属幼稚園視察実習(全課程) 8月・9(火)・10日(水)のうち1日間	附属幼稚園
	1.5日	附属小学校視察実習 (小学校主専・特支主専・養教) 9月12日(金)・9月16日(火)のうち1日間及び 9月19日(金)	附属小学校
1.5日		附属中学校視察実習 (中学校主専・養教・地共・スポ福) 9月5日(金)及び 9月19日(金)～9月25日(木)のうち1日間	附属中学校
9月27日(土)・28日(日)	半日	視察実習グループ討議(全課程)	

【3年次】

3年次実習(I)			
6月5日(木)	1日	教育実習オリエンテーション(全課程)	
3年次実習(II)			
6月6日(金)～6月11日(水)	4日	小学校主専(特支副専を除く)・養教	附属小学校
9月8日(月)～9月22日(月)	2週間	中学校主専・養教	附属中学校
9月11日(木)～9月26日(金)		小学校主専(特支副専を除く)・養教	附属小学校
		中学校主専・養教	附属中学校
3年次実習(III)			
8月28日(木)	半日	教育実習オリエンテーション(特支主専副専)	
9月1日(月)～9月26日(金)	4週間	特支主専副専	附属特別支援学校

【4年次】

4年次実習(I)			
4月10日(木)	半日	教育実習オリエンテーション(全課程)	
4年次実習(II)			
4月21日(月)～5月8日(木)	2週間	4月21日(月)～5月2日(金)及び8日(木) 小学校主専(中学校副専)	附属中学校
4月16日(水)～4月30日(水)	2週間	養教(前班)	附属特別支援学校
5月2日(金)～5月17日(土)		養教(後班)	
4月28日(月)～5月14日(水)	2週間	中学校主専(小学校副専)	附属小学校
4月21日(月)～5月14日(水)	3週間	特支主専副専	
4年次実習(III)			
5月29日(木)～6月11日(水)	2週間	小学校主専(特支副専を除く) 中学校主専	協力小学校 協力中学校
5月29日(木)～6月11日(水)	2週間	小学校主専(特支副専を除く)のうち、幼稚園教 諭免許状取得予定者で希望する者	附属幼稚園
5月29日(木)～6月18日(水)	3週間	養教(後班)	協力小学校
		養教(前班)	協力中学校
4年次実習(IV)			
6月21日(土)・22日(日) 28日(土)・29日(日)	1日	事後指導(全課程)	

【特別専攻科・特別別科】

9月22日(月)～10月17日(金)	4週間	養護教諭特別別科	附属小・中学校 附属特別支援学校 協力小・中学校
10月3日(金)～10月16日(木)	2週間	特別支援教育特別専攻科	附属特別支援学校

40

(出典：教育実習計画)

(資料E-1-2-4) 職員会議資料 (教育実習の反省)

平成26年度 4年次教育実習Ⅱ 反省のまとめ

実習部
2014/06/03

1 4年次教育実習Ⅱの運営面について

- 本年度も特別支援の学生が先に実習を始めていることで、子どもの実態をつかむことができている分、余裕を持って実習に臨むことができたようだった。また、1年生には特別支援の学生が2名ずつ配当されていたが、特別支援の視点を持ちながら、とても丁寧に子どもたちに関わろうとしていたことから、適当であったと思う。
- 指導案作成の経験がない特別支援の学生が、1週間早く実習に来たことで、安心して教育実習に取り組むことができたようだった。また、実習指導をする側から見ても、1週間早く来て気づいたことやわかったことを中学校過程の学生たちに教えている姿も見られたので、大変指導しやすかった。
- 体操服のシャツ出しがいないことからわかるように、実習部からの教生への全体指導が細やかになされているように感じました。
- ◎ 職員作業の際に、ライン張りの作業が終わっていないのを見て、すかさず自分のクラスの実習生を連れて作業の手伝いに来てくれた教官がいました。実習部がよく話をされるように、「社会人として役に立つ実習にするためには、このように周囲に目配り、気配りをする我々の姿を見せることも大変必要なことだと感じました。」
- ◎ 実践から学ぶ、という点で多くの実習生が積極的に授業を観察する姿が見られた。とともに、ある意味自分なりの工夫をこらそうとする姿も見られた。ただ、後半については基礎基本をおろそかにしないという点で、私たち教官の共通理解が必要である。
- ◎ 自分自身が附属小で初めて実習の指導をするということで、最初はかなり戸惑いがあった。ただ学級に入った教生のやる気を感じ、この人たちのやる気に少しでも応えなければ本当に自分がここに来た意味がないと思い、指導にあたった。ただその時、自分自身が「授業について」ばかり指導しようと盲目的になっていたと後半になって気づいた。今後の実習でその反省を生かして、授業だけに限らず、子どもとのかかわり方や指導、教室環境整備などについても我々が指導していくことが必要と感じている。

2 4年次教育実習Ⅱの教生の態度について

- 授業づくりについても、学級指導においても真面目な態度で取り組んでいた。学びようとする意識が強いこと、学級の教生が相談・協力し合う様子が印象的だった。
- 挨拶、礼儀、5分前行動が徹底していたなと感じた。特別に指導をしなければならなかった学生はいなかった。実習部の時をとらえた指導のおかげだと感じた。
- 非常にまじめでどの教生に対しても好感がもてた。また、毎日朝会で授業を見る観点を与えられていたので、無駄の少ない授業観察も出来ていた。授業づくりの面では、自分の授業のことだけでなく、他の教生の授業づくりのために教具を作ったり、模擬授業で改善点を指摘し合ったりする姿があった。協力し合い、自分が担当することになった学級のために頑張る姿よかったです。
- 積極的に授業作りに参加する学生が多く、意欲的に活動する姿が見られた。服装面でも、私から注意をすることがなく、心構えが十分育っていた。実習部の先生方の指導の賜物であると感謝している。

▲ 授業はもちろんのこと、行事や学級指導、係り活動など状況のみて指導しようとするのが大切だと感じた。

3 改善点について

◎ 指導しなければならぬ場面をとらえて、適切な指導が行えるよう私たち教官がもっと高い意識をもって指導に臨む。

◎ 「組織の一員として、自分で気付いて動いていく」という面にさらに指導の効果が出るように、期間の途中で共通理解ができたのがよかった。実習生の全体的な課題でもあったと思う。

◎ 特別支援の教生について、時期的な問題はいえないのかもしれないが、非常に学年はじめに近すぎるという点からもう少し遅くできないものだろうか。学級開きの大切な時間の設定が難しい。やはり、3年次、2年次の2段階が妥当であろう。⇒実習委員会で協議して行く。

◎ 他学年や委員会・クラブの観察用紙を実習生に返却するとなっていたが、最終日前日がクラブ活動であった。前年度までと異なり、慌てて返却するメリットはあったのだろうか。

⇒ 評価の際の資料に活用することに加え、今年度は5月29日からの協力校実習に活用できる活動の記録として指導した。今後、実習生の実習資料として活用させていきたい。

・ 次年度も、特別支援の実習期間を一週間早めに計画し、最終日を中学校主専と同じにしていく。

・ 3年次では授業のみならず、教師としての姿を範で示すことを共通理解としたい。

実習期間中の活動として、クリーン作戦や職員作業を設定した。それらの活動を単なる作業として我々教官がとらえるのではなく、その活動を実習生に「範を示す」機会をとらえ、指導していただき、意味のあるものへと高めていただけたことに感謝する。

それぞれの活動の中で、全体への適切な指示の出し方、無駄のないスムーズな作業分担、子どもたち一人一人にもち場と責任感を与え、夢中になって作業させ、賞賛し次へとつなげていく担当教官の姿が見られた。実習生にとって、われわれ教官の姿が彼らの「当たり前」となる。そうである以上、彼らにとっての「当たり前」の質を高めていくことが附小教官としての責務であろう。授業のみならず、教師としての質の高い仕事を範として示していくこと、現場に出て役に立つ教師へと育てていくこと、このことを私たち教官が共通理解としてもち、3年次実習へと臨んでいきたい。

(出典：職員会議資料)

観点1-3 附属学校園の役割・機能の見直しの観点から、附属学校園の目的を十分に果たしているか

(観点に係る状況)

教育学部・附属学校連絡協議会が毎月1回実施され、附属学校園のあり方をもとにした具体的な取組等について協議がされている。この会には毎回校長が出席し、学期1回(年間3回)副校長も出席している。さらに、年間1回はPTA会長・教育後援会会長・学校評議員代表者も出席をしている。また、毎学期末(年間3回)に職員による教育活動の評価を実施し、部長会を通して検討と修正を行い、本校の教育目標の具体化を推進している。年度末には、保護者と児童の学校評価を実施し、1年間の教育活動の評価をもとに部長会や部会で協議を行い、次年度の実践内容と計画に生かしている。(資料E-1-3-1~E-1-3-2)

学校評議員会についても年間3回実施し、授業参観や行事参観、情報交換等を行っている。学校評議員は、元附属小学校校長(教育学部教授)、元附属小学校職員、元附属小学校保護者によって構成されてい

るため、附属学校としての役割を十分理解された指導・助言であり、改善に向けての適切な情報を得ることができる。(資料E-1-3-3)(中期計画番号65、66)

熊本県・熊本市教育委員会との研究面での連携については、研究発表会の司会者・助言者を毎年お願いし、本校の研究内容面の発信や情報収集を行っている。また、本校職員が熊本市や熊本県の公立学校の校内研修講師や研究組織の役員・事務局等を務め、共同研究に向けたつながりを強めている。ただ、共同研究レベルの連携には至っていない。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学部・学校評議員・保護者・児童・教育後援会等の指導や助言、要望を踏まえ、それらを部長会や部会で協議・検討し、長期的・短期的に改善をしているため。

(資料E-1-3-1) 学校評価

平成25年度 学校の教育活動等の評価

()年()組 氏名()

※子どもさんの様子等から、あてはまると思われるところに○をつけてください。

(保護者の方で記入ください)

【評価の段階】 4：とてもそう思う 3：ややそう思う
2：あまりそう思わない 1：そう思わない

評価項目	No.	評価の内容	評価
自主・自立の教育	1	楽しく学習し、学習の内容が分かっていると思いますか。	4-3-2-1
	2	学習の仕方や習慣が身についていると思いますか。	4-3-2-1
	3	自然に関することや社会の出来事に興味や関心があると思いますか。	4-3-2-1
	4	掃除、ボランティア等に対して進んで取り組んでいると思いますか。	4-3-2-1
個性重視の教育	5	学校で自分のやりたいことや好きなことができていますか。	4-3-2-1
	6	自分でできることは自分で考え行動しようとしていますか。	4-3-2-1
	7	あいさつや皆で協力する活動に進んで取り組んでいると思いますか。	4-3-2-1
	8	係りや委員会(高学年)の仕事に進んで取り組んでいると思いますか。	4-3-2-1
自他の尊重と 心の教育	9	友達と仲良く学校生活を送っていると思いますか。	4-3-2-1
	10	友達や生き物に優しく接しようとしていますか。	4-3-2-1
	11	健康な体のために運動や食事、睡眠等に気をつけていますか。	4-3-2-1
	12	安全やマナーに気をつけて登下校をしていますか。	4-3-2-1
教育環境の整備	13	先生は、子どもに寄り添った指導や対応をしていますか。	4-3-2-1
	14	安全な環境づくりができていますか。	4-3-2-1
	15	花壇や掲示等、潤いのある環境づくりができていますか。	4-3-2-1
	16	教育機器等の学習環境の活用や整備はできていますか。	4-3-2-1
保護者との連携	17	学校の行事や授業等への参加はしやすいと思いますか。	4-3-2-1
	18	担任の先生などに心配事や気になる事を相談しやすいと思いますか。	4-3-2-1
	19	子どものために学校と保護者が協力していると思いますか。	4-3-2-1
	20	学級や学校の様子がよく分かると思いますか。	4-3-2-1

自由記述欄

(出典：学校評価)

(資料E-1-3-2) 学校評価のまとめ

学校評価まとめ

平成25年度末に実施した学校評価の結果をお知らせいたします。
この結果を生かして、さらに附属小教育活動の質を保護者の方々とともに
高めていけたらと考えております。ご協力ありがとうございました。

《成果》

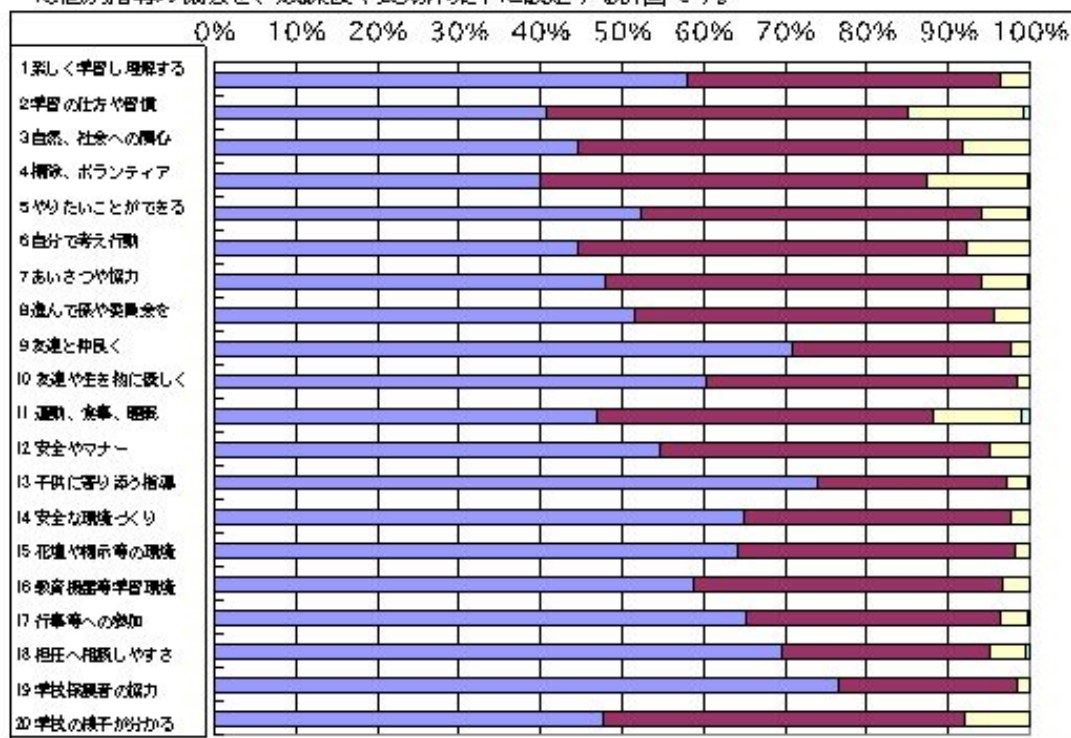
- 20項目中17項目で90%以上が肯定的な評価であり、そのうち12項目が95%以上の高い評価であった。
- 昨年度の評価と比較すると、ほとんどの項目で改善がみられた。特に、「項目3：自然や社会への興味関心」「項目20：学級や学校の様子がよく分かる」のポイントが高くなっている。

《課題と対策》

- 他項目と比べやや低い評価であったのが、「項目2：学習の仕方や習慣が身に付いている」「項目4：掃除、ボランティア等に進んで取り組んでいる」「項目11：健康な体のために運動や食事、睡眠等に気をつけている」の3項目でした。
⇒ 本年度は朝のボランティア活動や学校保健委員会、教育講演会等の内容充実とともに、健康教育と関連づけた食育の推進を図りたいと思います。また、項目2の評価については、保護者の期待の高さによると考えますが、学年の発達段階や個に応じた指導を強化したいと思います。
- 「項目6：自分でできることは自分で考え行動する」と「項目14：安全な環境づくりができている」、「15：花壇や掲示等、潤いのある環境づくりができている」の3項目が昨年度に比べ若干低下していました。
⇒ 項目6については、自分がやるべき事であっても、面倒なことやきついことを避ける傾向があるのは事実です。道徳教育の充実とともに、「任せて褒める指導」を意識した子ども主体の活動をさらに意識していきたいと思います。また、教育環境については、安心安全を第一に考え、大学や教育後援会への要望を継続しながら、PTA環境委員会や保護者ボランティアと連携して潤いのある環境づくりに努めていきたいと思っています。

《自由記述より》

- 学習内容の定着に対する不安感：学年・学校全体を視野に入れて、基礎基本の定着を目的とした個別指導の機会を、放課後や長期休業中に設定する計画です。



(出典：学校評価のまとめ)

(資料E-1-3-3) 学校評議会記録

平成26年度 第1回学校評議会議事録

1 日時

平成26年6月24日(火) 9:30~11:30

2 場所

附属小学校校長室

3 参加者

【学校評議員】



【学校側】

4 日程

委嘱状交付 9:20~

- (1) 開会 9:30
- (2) 校長挨拶 9:30~ 9:40
- (3) 学校の現状報告 9:40~ 9:50
- (4) 意見交換・助言 9:50~10:50
- (5) 閉会

※ 授業参観 10:50~11:30

5 主な内容

(1) 開会 (坂本教頭)

(2) 校長挨拶 (河野校長)

日頃から本校教育にご支援いただきありがとうございます。学校では本年度も、新たな教育活動を展開している。教育環境として、体育館の改修が無事終了して子どもたちも大変喜んでいる。給食センターは現在撤去作業が終了し、来年2月末に完成予定である。今年度、新しくお二人の方に学校評議員をお願いする。ご指導、ご支援をお願いしたい。

(3) 学校の状況報告 (志波典明 副校長)

- ・ 本年度教職員数及び児童数
- ・ 平成25年度末教職員移動状況
教諭3名、栄養教諭1名、養護教諭1名、非常勤講師1名
- ・ 学校評議員 2名交代
- ・ 教育実習 4年次実習 4月21日~5月14日
3年時実習 6月6日~11日、9月8日~22日

(出典：学校評議会記録)

分析項目Ⅱ 初等中等教育

観点2-1 入学者選抜方法

(観点に係る状況)

本校の入学者募集要項については、教育学部・附属学校連絡協議会で検討のうえ決定している。それを受け、校内で入学選考考査実施計画を作成し、職員会議で提案・検討したうえで選考考査を実施している。募集要項は、11月に公示し、本校ホームページからのダウンロード及び本校事務室にて配付の方法をとっている。(資料E-2-1-1)) 志願者の保護者に対しては、選考考査説明会を実施し、本校の特性と考査内容を十分理解したうえで志願できるようにしている。なお、本説明会においてのみ願書等の関係書類を配付するため、説明会に出席しなければ志願資格が得られない仕組みになっている。(資料E-2-1-2)

選考考査の内容については、幼稚園要領の領域をもとに本校職員が各領域2種類の問題を作成する。選考考査当日に領域ごとにどちらの問題で実施するかを管理職から問題作成者に伝え、信頼性の担保に努めている。なお、全職員による行動面・態度面の観察や管理職による保護者面接も実施し、様々な視点・複数の目から合格判定を行っている。(資料E-2-1-3))

合格判定については、本校職員による判定会議を経て決定している。附属幼稚園からの受検者は第1次合格者を最終合格とし、それ以外の受検者は第1次合格者による抽選をもって最終合格としている。

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本校の特性に適した入学者を確保するための体制と信頼性のある実施方法・情報公開がなされている。

(資料E-2-1-1) 入学者募集要項

平成26年度 入学志願者募集要項

熊本大学教育学部附属小学校
 (所在地) 熊本市中央区京町本丁5番12号
 (電 話) 096-356-2492 (代表)

本校は、義務教育を行う国立大学法人熊本大学教育学部附属の小学校です。そのため、教育学部学生の教育実習を行います。また、教育学部および附属幼稚園・附属中学校・附属特別支援学校、その他の研究機関と連携して教育改善のための研究を行う学校です。したがって、本校独自の教育計画による教育を行うことがあります。

入学志願者の保護者は、本校の特質を十分ご理解のうえ、志願してください。

1 募集定員

105名程度(男子53名 女子53名程度) ※ 附属幼稚園からの連絡入学者を含みます。

2 志願資格

次の条件をすべて満たす必要があります。

- (1) 平成19年4月2日～平成20年4月1日の間に生まれた者
- (2) 熊本市に保護者と同居し、そこを生活の本拠地とする者
 ※ 本校入学のための寄留は認めません。
- (3) 自宅(生活の本拠地)から徒歩または公共交通機関を利用して、50分以内で通学できる者
 ※ 資格の変更があれば、転校をお願いすることがあります。
 ※ 県外等居住者の出願の場合、保護者の転勤見込み証明書等を出願時に添付してください。

3 入学者募集説明会

- (1) 日 時 平成25年11月25日(月)
 受付 9:30～10:00 説明会 10:00～12:00
- (2) 場 所 附属中学校体育館(※附属小体育館改修工事のため)
- (3) 留意事項
 - ① 時間厳守をお願いします。10時以降の入場はお断りします。
 - ② 説明会への出席は、志願者の保護者又は代理の方1名のみ(特別な理由がある場合は事前にご相談ください)とし、入学選考検査を受けるお子様や乳幼児の同伴は禁止します。
 - ③ 上履きは各自ご用意ください。

入学願書は、この説明会においてのみ交付します。

その他の請求には一切応じられませんので、ご注意ください。

4 入学願書の受付

- (1) 受付期間および時間
 - ① 期 間 平成25年12月4日(水)～12月6日(金)
 - ② 時 間 9:00～16:00(12:00～13:00を除く)
 ※ ただし、12月6日(金)は12:00までとする。
- (2) 提出物

① 入学願書 ② 通学経路届 ③ 住民票(熊本市在住で保護者と志願者が同居と分かるもの)
④ 検定料 3,300円(検定料納入後の返金はできません)
- (3) 提出先 附属小学校事務室 ※ 願書提出後、受付票、領収証をお渡しします。

5 入学者選考検査

- (1) 期 日 平成26年1月5日(日)
- (2) 場 所 熊本大学教育学部附属小学校 (受付場所) 附属中学校体育館
- (3) 内 容 本校の特質を考慮し、考える力、判断する力、運動する力、話を聞く力、集団で行動するときの態度等に関する内容

- (4) 方法 選考考査により、第1次合格者を決定します。その後、抽選によって最終合格者を決定します。(ただし、附属幼稚園からの第1次合格者は、抽選はありません。)

- (5) 日程

受付	8:40～9:10 (時間厳守)
日程説明	9:15～
選考考査	9:45～
昼食	12:00～
選考考査	13:00～
終了予定	15:00

- (6) 留意事項

- ① 必ず保護者同伴で受検してください。保護者面接も行います。
- ② 受付にて、受付票を提示し、受検票を受け取ってください。
- ③ 原則として、受付終了時刻の9時10分までに入場されない場合、志願を辞退されたものとします。
- ④ 昼食、上履き(お子さんの上靴は無記名のもの)をご用意ください。

6 第1次合格者発表及び抽選

- (1) 期日 平成26年1月7日(火)

- (2) 日程及び場所

第1次合格者発表 (本校玄関前)	9:30
抽選受付 (附属中学校体育館)	9:30～10:00 (時間厳守)
抽選 (附属中学校体育館)	10:10～
最終合格者発表 (本校玄関前)	13:00

※ 電話による可否の問い合わせはお断りいたします。

※ 抽選会場には、保護者1名のみ入場できます。(双子等の場合はこの限りではありません。)

7 入学手続き

入学手続きでは、以下のとおり確約書を提出していただきます。

- (1) 期日 平成26年1月7日(火)

- (2) 場所 熊本大学教育学部附属小学校事務室及び抽選会場

- (3) 日程

① 附属幼稚園からの合格者(事務室)	9:30～10:30
② ①以外の最終合格者(抽選会場)	抽選終了後

8 入学許可証交付及び新1年生保護者説明会

- (1) 期日 平成26年2月21日(金)

- (2) 場所 熊本大学教育学部附属小学校教生講義室(3F) (受付場所) 低学年昇降口

- (3) 日程

受付	13:30～14:00 (時間厳守)
入学許可証交付	14:10～14:30
学校側説明、事務手続き等	14:30～16:00

※ 「7 入学手続き」と「8 入学許可証交付」をもって入学許可とします。本会に欠席された場合は、入学の意志がないものとします。(新1年生保護者会には、保護者1名のみご出席ください。)

9 その他

- (1) 提出書類に事実と異なる記載がある場合は、受検資格および合格を取り消します。
- (2) 選考考査後、個人情報に関する書類等は、当方で責任をもって処分いたします。
- (3) 選考考査に関するすべての場合において、校内への車の乗り入れはできません。他の交通機関をご利用ください。また、学校周辺の路上や施設への無断駐車は絶対にしないでください。

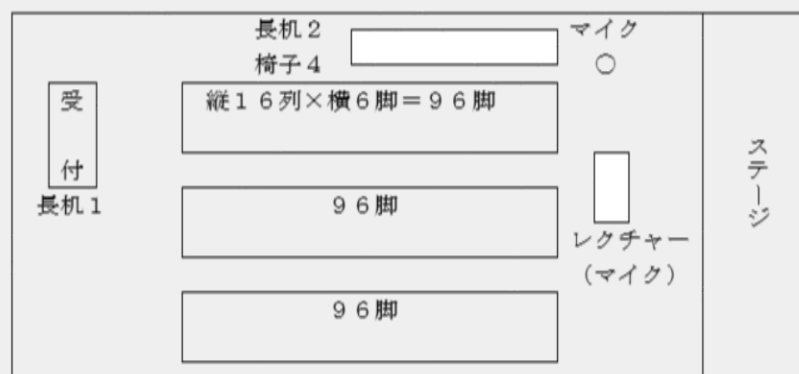
(出典：入学志願者募集要項)

(資料E-2-1-2) 入学者募集説明会実施計画

平成26年度入学者募集説明会運営計画

平成25年11月19日
熊本大学教育学部附属小学校

- 1 目的
来年度入学児童の公正な入学選考の実施と適正な運営を図る。
 - 2 期日
平成25年11月25日(月) 午前10時～12時
 - 3 場所
熊本大学教育学部附属中学校体育館
 - 4 説明会
 - 受付 9:30～10:00 (10:00にドアを閉める:事務部)
 - ※進行:教頭
 - (1) 開会(進行) 10:00
 - (2) 校長あいさつ(校長) 10:05～10:10
 - (3) 附属小学校の特色と入試の説明(副校長) 10:10～10:40
 - (4) 提出書類と入試当日の日程について(教頭) 10:40～11:00
 - (5) 質疑(進行) 11:00～
 - (6) 閉会(進行)
 - 5 係り分担
 - 提出書類準備(河端、岩下)
 - 受付場設営、受付(河端、岩下)
 - マイク等(プロジェクター、スクリーン、ドラムコード)準備(前田)
 - 会場作り(5年部)※当日朝8:15～
 - 後片付け(5年部)※当日昼休み12:20～
- ※会場図(附属中学校体育館)



(出典:入学者募集説明会実施計画)

(資料E-2-1-3) 選考考査実施計画

平成26年度入学者 選考考査実施計画

1 期日

平成26年1月5日(日)～7日(火)

2 場所

熊本大学教育学部附属小学校・附属中学校

* 附属中体育館(オリエンテーション, 保護者控え室)

* 附属小中棟, 低学年棟, 管理棟(児童控え室, 考査会場)

3 日程

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| (1) 入学者選考考査説明会 | 11月25日(月) 10:00～12:00 |
| (2) 選考(問題作成)委員任命 | 12月2日(月) 職員会議時 |
| (3) 願書受付 | 12月4日(水)～12月6日(金) |
| (4) 問題検討(四役と作成者) | 12月16日(月)～12月20日(金) |
| (5) テスター任命 | 12月16日(月) 職員会議時 |
| (6) 問題提出 | 12月24日(火) |
| (7) 会場設営 | 12月25日(月)(※教室整理等のみ) 28日(土) |
| (8) 選考考査 | 1月5日(日) |
| (9) 第一次選考会議 | 1月6日(月) |
| (10) 第一次合格発表, 抽選, 最終合格者発表 | 1月7日(火) |

4 考査内容

(1) 選考考査問題作成及び選考に関する基本方針

- ① 本校の使命である教育実習, 教育研究が目的に沿って行われることを選考の際の前提とする。
- ② 一人の受検者を複数の職員で観察, 考査を行うことにより客観的かつ公平な判断を行う。
- ③ 考査問題の内容は, 簡単で客観的な判断ができるものとする。

(2) 選考の観点

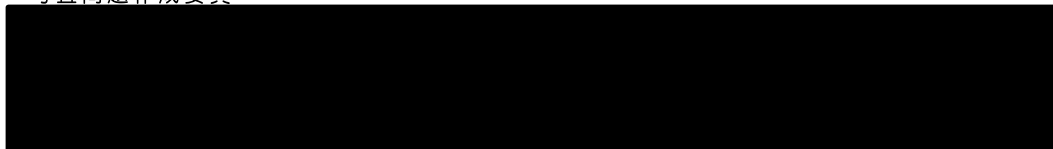
- | | |
|--------------------------|------------------|
| ① 観点1 明るく意欲的に活動できる。 | 健康(2)(4) |
| ② 観点2 自分のことは自分でできる。 | 健康(6) 人間関係(3) |
| ③ 観点3 集団行動や集団活動ができる。 | 人間関係(6)(7)(8)(9) |
| ④ 観点4 数量や図形に対する感覚をもっている。 | 環境(8) |
| ⑤ 観点5 分かりやすく話すことができる。 | 人間関係(5)言葉(2)(3) |
| ⑥ 観点6 人の話を注意して聴くことができる。 | 言葉(4) |
| ⑦ 観点7 意欲的に表現することができる。 | 表現(6)(7) |

【幼稚園教育要領の観点】

(3) 考査の内容

- | | | |
|--------------|------------------|-------|
| ① 思考: 観点④⑦ | 配点30点 | |
| ② 音声: 観点⑤⑥⑦ | 配点20点 | |
| ③ 動作: 観点①②③⑥ | 配点30点 | |
| ④ 態度: 観点③⑥ | 配点10点(状況により減点する) | 合計90点 |

5 考査問題作成委員



6 選考考査問題作成の留意点

- (1) 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育指導書」の内容，昨年度までの問題等を十分に検討して作成する。
- (2) 幼稚園やその他機関による準備教育を促すような問題を避け，児童の実態がとらえやすい問題を作成する。
- (3) 受検者の体力などを考慮し，短時間で客観的な判断ができる問題を工夫する。
- (4) 生活歴による差が表れにくい問題を作成する。
- (5) 発問は簡潔で分かりやすいものにする。

7 「態度」の考査内容について

- (1) 態度については，考査中や教室間の移動や待機中の子どもの行動を次の観点から観察し，引率者，テスター，テスター補助者が評価を行う。また，その他の場面での問題となる行動があれば記録しておく。
- (2) 評価する視点は以下の二点とし，各5点を配点する。
 - 視点1：テスターの説明を聞き，落ち着いて考査に取り組むことができる。
 - 視点2：順序よくならんだり，指示された場所で待機したりすることができる。
- (3) 評価の基準は下記の通りである。
 - ① 教師の指示を理解し，行動することができた場合。 : 5点
 - ② 指示されたことをなかなか守ろうとしないことがある場合。 : 3点
(一度注意をすれば指示されたことを守る)
 - ③ 指示に従わず，自分本位な行動をする場合 : 1点
(再三注意しても受け入れない)

8 問題作成の方法

- (1) 問題作成の場所は原則として校長室・副校長室・会議室とする。
- (2) 問題は必ず2案以上作成して検討する(A案B案)
- (3) 問題内容はすべて「極秘扱い」とする。
- (4) 問題作成に必要な資料や道具などの購入は，必ず事前に主幹教諭に相談の上，納品書，請求書を事務係長へ提出する。
- (5) 問題提出
12月24日(火) 校長室金庫へ。(受検者の人数分+テスター用)

9 会場等

- (1) 受検者，保護者入口(附属中体育館後方扉：靴置き場は附属中体育館靴箱)
控室：保護者 (附属中体育館)
一般男子(視聴覚室) 一般女子(音楽室) 附幼(読書館)
- (2) 考査会場
 - ① 午前：「音声」試験会場(低学年棟各階2組，3組教室)
「動作」試験会場(低学年棟各階1組教室)
 - ② 午後：「思考」試験会場(低学年棟全教室)
- (3) 保護者面接会場(5年1組，5年2組，5年3組)
- (4) 感染症等配慮を要する受検者が出た場合
思考，音声(保健室) 動作(図工室)

10 最終合格者数と受検者数

- (1) 最終合格者数 105名 (男子同数程度)
 (2) 受検者数 ① 一般 140名 (男子 70名, 女子 70名)
 ② 附属幼稚園 39名 (男子 21名, 女子 18名)

11 日程 (準備) 等

【12月24日】 考査会場等の準備

児童下校前に済ませておくこと

- (1) 低学年棟, 5年教室: 該当学年担任で対応
 * 廊下側の窓に新聞紙を貼る * 机は教室後方に整理する
 * 廊下に待機用の椅子を出す
 (考査に使う机椅子の数, 廊下の椅子の数は問題作成者より21日に連絡)
- (2) 視聴覚室整理: [黒塗り]
 (3) 音楽室整理: [黒塗り]
 (4) 靴箱, 昇降口: [黒塗り] : 掃除担当
 (5) 学年トイレの清掃: [黒塗り] : 各学年掃除担当, [黒塗り]
 (6) 諸札準備と貼付け: 校務部
 * 「面接会場」: 5年1組, 2組, 3組教室
 * 「トイレ」: 各学年トイレ

【12月28日、1月5日】 附属中体育館の準備

- (1) 保護者控室: 体育館 (研究部, 教育実習部, 体育保健部)
 * シート引き・椅子並べ,
 * 靴置き場準備 (体育館横靴箱, 体育館後方にブルーシート設置)
 * 受検番号貼付け (椅子の配置は後日主幹より連絡)
 * ストープ設置 (体育館: 大型4台 ※附中から借用)
- (2) 諸札準備と貼付け: 校務部
 * 「受検番号」: 準備後体育館設営担当部へ
 * 「受付」: 体育館後方入口, 両扉1カ所ずつ
 * 「一般男子」「一般女子」「附幼男子」「附幼女子」: 受付の机各1枚
 * 「トイレ」: 体育館
- (7) 体育館トイレ清掃: [黒塗り]
 (8) 抽選準備: 生活部, 教務部

(出典: 入学者選考考査実施計画)

観点2-2 在校生の状況

(観点に係る状況)

在校生は、平成22年度及び平成23年度は720名(各学年3学級の18学級、各学級男子20名・女子20名の計40名)である。平成24年度は708名(18学級、1年生3学級のみ各学級男子18名・女子18名の計36名、2年生以上は各学級男子20名・女子20名の計40名)である。平成25年度は696名(18学級、1・2年生6学級のみ各学級男子18名・女子18名の計36名、3年生以上は各学級男子20名、女子18名の計40名)である。平成26年度は684名(18学級、1～3年生12学級が各学級男子18名・女子18名の計36名、4年生以上の12学級が男子20名・女子20名の計40名)である。(資料E-2-2-1)

卒業生数は、平成21年度119名(男子59名・女子60名)、平成22年度118名(男子59名・女子59名)、平成23年度119名(男子59名・女子60名)、平成24年度120名(男子60名・女子60名)、平成25年度119名(男子59名・女子60名)である。(資料E-2-2-2)

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

35人学級への対応を進めているため。

(資料E-2-2-1) 平成26年度在籍者数

(2) 学級編制

平成26年度在籍数

平成26年5月1日現在

学年	組	男	女	計	家庭実数	男	女	計	家庭実数
1	1	18	18	36	25	54	54	108	79
	2	18	18	36	27				
	3	18	18	36	27				
2	1	18	18	36	27	53	54	107	76
	2	18	18	36	23				
	3	17	18	35	26				
3	1	18	18	36	31	54	54	108	88
	2	18	18	36	29				
	3	18	18	36	28				
4	1	20	20	40	34	59	60	119	105
	2	20	20	40	38				
	3	19	20	39	33				
5	1	20	20	40	36	60	60	120	113
	2	20	20	40	38				
	3	20	20	40	39				
6	1	20	20	40	40	60	60	120	119
	2	20	20	40	40				
	3	20	20	40	39				
計		340	342	682	580	340	342	682	580

(資料E-2-2-2) 卒業生進学状況

8 卒業生の進学状況

年 度	卒業児童数			附 中	公 立	私 立							
	男女計	計				九 学	マ リ ス ト	真 和	学 院	ル ー テ ル	尚 信 網 愛	文 徳	ラ サ ール
元	男	59	119	33	16	0	1	3	0	0	0	1	5
	女	60		54	5	0	0	0	1	0	0	0	0
2	男	58	115	42	7	0	1	2	0	0	0	2	4
	女	57		45	4	1	0	1	2	4	0	0	0
3	男	59	119	42	11	0	2	0	0	0	0	0	4
	女	60		42	9	1	0	3	5	0	0	0	0
4	男	58	116	42	5	3	0	0	0	0	0	3	5
	女	58		44	7	1	0	0	3	1	0	0	0
5	男	58	118	43	9	0	0	1	0	0	0	0	5
	女	60		43	5	1	0	0	6	5	0	0	0
6	男	60	120	41	6	2	2	0	0	0	0	3	6
	女	60		41	7	2	0	0	2	6	0	0	2
7	男	58	118	43	7	1	5	0	0	0	0	1	1
	女	60		43	4	1	0	1	4	5	1	0	1
8	男	57	117	43	6	2	2	1	0	0	0	1	2
	女	60		44	8	0	0	1	2	5	0	0	0
9	男	57	117	40	9	0	2	1	0	0	2	1	2
	女	60		51	5	0	0	1	1	2	0	0	0
10	男	59	119	43	9	1	2	2	0	0	0	0	2
	女	60		48	6	1	0	0	1	1	0	0	3
11	男	60	119	45	4	4	3	3	0	0	0	1	0
	女	59		47	5	1	2	1	1	0	0	0	2
12	男	58	118	48	4	1	0	1	0	0	1	1	2
	女	60		44	9	1	2	0	1	1	1	0	1
13	男	59	117	43	8	2	2	0	0	0	2	0	2
	女	58		45	6	1	3	0	0	0	2	0	1
14	男	57	116	42	5	1	1	1	0	0	0	1	6
	女	59		46	8	0	1	2	1	1	0	0	0
15	男	59	119	41	7	0	2	0	0	0	2	1	6
	女	60		40	5	0	4	3	1	2	0	0	5
16	男	60	117	44	1	0	2	1	0	0	1	4	7
	女	57		43	7	1	0	1	1	4	0	0	0
17	男	60	120	43	7	1	1	1	0	0	0	5	2
	女	60		43	8	1	3	1	0	1	3	0	0
18	男	60	120	42	9	2	1	1	1	0	0	0	4
	女	60		38	13	1	2	1	0	2	2	0	1
19	男	60	118	43	6	0	1	1	0	0	0	4	5
	女	58		38	9	1	1	3	2	2	1	0	1
20	男	57	117	39	10	3	0	0	2	0	1	2	0
	女	60		42	8	1	1	2	2	2	1	0	1
21	男	59	119	42	6	1	1	1	0	0	0	4	4
	女	60		40	8	1	1	1	0	4	1	0	4
22	男	59	118	40	3	0	2	1	0	0	2	6	5
	女	59		42	3	2	2	4	1	1	2	0	2
23	男	59	119	39	8	2	1	2	1	0	1	2	3
	女	60		41	6	0	1	3	0	4	1	0	4
24	男	60	120	44	6	1	0	0	0	0	0	4	5
	女	60		49	2	1	2	2	0	1	2	0	1
25	男	59	119	47	4	0	0	0	0	0	1	3	4
	女	60		45	3	3	0	1	0	2	1	0	5

(出典：学校要覧)

観点2-3 教育課程の編成

(観点に係る状況)

本校では、本校の使命に基づいた教育目標を達成するために、子ども像や教師像・学校像を明確化し、本年度の重点努力事項を設定し、各部を中心とした具体策を工夫しながら教育活動を行っている。具体的には、次のような取組を行っている。

- ・先導的な研究や教育実習が充実するよう行事の厳選・調整や日課の工夫による研修時間及び実習生の指導時間の確保
- ・教育活動面での各分野のリーダーとなる部長の配置
- ・組織的・機動的な教育活動のための部長会及び部会の位置づけと実施
- ・専科（理科・音楽科）や非常勤講師（音楽科・家庭科・外国語活動）の配置や教諭による交替授業による専門的な指導
- ・授業時数の確保と会議の精選と時間短縮

(資料E-2-3-1)

学習支援については、音楽科と家庭科に非常勤講師を配置するとともに、外国語活動ALTの配置も行っている。また、低学年における放課後の個別指導や全学年における長期休業中の学習会を実施している。(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本校の教育目標を達成するために意図的・計画的な教育課程が編成され、組織的に推進されているため。ただ、学習支援については、予算面からくる人材確保と時間確保の点から厳しい状況である。

(資料E-2-3-1) 平成26年度教育課程

4 教育課程

(1) 日課表

1日のくらし

	月 ~ 金
健康観察	8:30 ~ 8:35
さわやかタイム	8:35 ~ 8:50
連絡	8:50 ~ 8:55
1	8:55 ~ 9:40
2	9:50 ~ 10:35
3	10:50 ~ 11:35
4	11:45 ~ 12:30
給食	12:30 ~ 13:00
昼休み	13:00 ~ 13:30
そうじ	13:30 ~ 13:45
5	13:55 ~ 14:40
6	14:50 ~ 15:35 *委員会活動、クラブ活動(火) 15:00 ~ 15:45
下校	16:30

- 職員朝会 毎週 月曜日・木曜日 8:35~8:50
- 教官研 毎週 木曜日 15:30~
- 職員会議 月1回 月曜日 16:00~
- さわやかタイム 8:35~8:50
(月・火・木・金曜日) 朝の読書
(水曜日) なかよし集会
学年集会
トリスポーツ
うたごえ集会
クリーン作戦

(2) 授業日数と授業時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
授業日数	191	194	194	195	198	195
総時数	950	1005	1073	1123	1140	1123
標準時数	850	910	945	980	980	980
剰余時数	39	35	41	42	39	27
学校行事	35	36	36	50	71	72
児童会	2	2	12	12	12	12
クラブ	0	0	10	10	10	10
指導可能時数	889	945	986	1122	1019	1007

(3) 各学年の週あたりの授業時数

1年(25時間)							2年(26時間)							3年(27時間)						
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
月	○	○	○	○	○		月	○	○	○	○	○		月	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○		火	○	○	○	○	○		火	○	○	○	○	○	
水	○	○	○	○	○		水	○	○	○	○	○	○	水	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○		木	○	○	○	○	○		木	○	○	○	○	○	
金	○	○	○	○	○		金	○	○	○	○	○		金	○	○	○	○	○	

4年(28時間+クラブ)							5年(29時間)							6年(29時間)						
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
月	○	○	○	○	○	○	月	○	○	○	○	○	○	月	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	ク/○	火	○	○	○	○	○	ク/○	火	○	○	○	○	○	ク/○
水	○	○	○	○	○	○	水	○	○	○	○	○	○	水	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○		木	○	○	○	○	○		木	○	○	○	○	○	
金	○	○	○	○	○	○	金	○	○	○	○	○	○	金	○	○	○	○	○	○

火曜日6校時に委員会・クラブがない場合は、教科等の配当で授業を行う。

火曜日6校時に委員会・クラブがない場合は、教科等の配当で授業を行う。

火曜日6校時に委員会・クラブがない場合は、教科等の配当で授業を行う。

観点2-4 授業改善のための取組

(観点に係る状況)

本校では、研究部が中心となって理論研究会や研究授業及び授業研究会を年間通して計画的に行い、授業改善の取組を続けている。授業改善については、全職員が年間1回以上の研究授業を行い、全職員で協議をしてよりよい授業のあり方を継続的に追求している。計画の作成と推進については、月1回の定期的な研究推進委員会を実施し、管理職からの指導助言が反映される体制をとっている。(資料E-2-4-1)

また、年間1回の初等教育研究会を開催し、公開授業と分科会を通して役員や参加者から研究内容についての指導助言を得て授業改善に生かしている。(資料E-2-4-2～E-2-4-3)

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

授業改善に向けての取組が共通理解のもと、関係機関と連携を図りながら組織的に推進されているため。

(資料E-2-4-1) 研究会年間計画

平成26年度教官研計画																																					
4月					5月					6月					7月					8月					9月												
1	火	職員会議	1	木	本曜日課	1	日	授業参観	1	火		1	金		1	月	始業式																				
2	水		2	金	本曜日課教官研	2	月	授業参観	2	水		2	土		2	火																					
3	木	春の研	3	土	夏祭の日	3	火		3	木	教官研大研外	3	日		3	水																					
4	金	職員会議	4	日	みどりの日	4	水		4	金	学級懇談会	4	月		4	木	教官研大研保健																				
5	土		5	月	こどもの日	5	木	教官研大研計	5	土		5	火		5	金																					
6	日		6	火	こどもの日	6	金	3年次実習Ⅱ	6	日		6	水		6	木																					
7	月		7	水		7	土		7	月		7	木		7	金																					
8	火	始業式	8	木	教官研	8	日		8	火		8	土		8	日																					
9	水		9	金		9	月		9	水		9	日		9	月																					
10	木		10	土		10	火		10	木		10	水		10	金																					
11	金	入学式	11	日		11	水		11	金		11	月		11	火																					
12	土		12	月		12	木	教官研大研理	12	土		12	水		12	木																					
13	日		13	火		13	金		13	日		13	火		13	水																					
14	月		14	水		14	土	開校会	14	月	6年終業式	14	木	PTA作業職員研修	14	金	PTA作業職員研修																				
15	火		15	木		15	日		15	火	終業式 学旅行 修学・修業・修業 学校	15	土	PTA作業職員研修	15	日	PTA作業職員研修																				
16	水		16	金	本曜日課教官研	16	月		16	水		16	木		16	金																					
17	木	新任研	17	土		17	火	附小タイム	17	木		17	日		17	月	合宿研																				
18	金		18	日		18	水		18	金		18	月	合宿研	18	火	合宿研																				
19	土		19	月		19	木	教官研小研体・理	19	土		19	日		19	月	合宿研																				
20	日		20	火		20	金		20	日		20	水		20	木																					
21	月	4年次実習	21	水		21	土		21	月	海の日	21	木	夏の研	21	金	実践研																				
22	火	授業参観	22	木	教官研	22	日		22	火		22	土		22	日																					
23	水		23	金		23	月		23	水		23	木		23	金																					
24	木	教官研	24	土		24	火		24	木		24	日		24	月	PTA作業職員研修																				
25	金	歓迎遠足	25	日		25	水		25	金		25	月		25	火																					
26	土		26	月		26	木	教官研大研音	26	土		26	日		26	月																					
27	日		27	火		27	金		27	日		27	水		27	木																					
28	月		28	水		28	土		28	月		28	火		28	水																					
29	火	夏祭の日	29	木	教官研	29	日		29	火		29	土		29	日																					
30	水		30	金		30	月		30	水		30	木		30	金																					
31	木		31	土					31	日			月			火																					

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	水	2	木	1	月	31	金	1	日	10	日
2	木	3	金	2	火	31	土	2	月	2	月
3	金	4	土	3	水	31	日	3	火	3	火
4	土	5	日	4	木	31	月	4	水	4	水
5	日	6	月	5	金	31	火	5	木	5	木
6	月	7	火	6	土	31	水	6	金	6	金
7	火	8	水	7	日	31	木	7	土	7	土
8	水	9	木	8	月	31	金	8	日	8	日
9	木	10	火	9	火	31	月	9	月	9	月
10	金	11	水	10	水	31	火	10	火	10	火
11	土	12	木	11	木	31	水	11	水	11	水
12	日	13	金	12	金	31	木	12	木	12	木
13	月	14	火	13	土	31	金	13	金	13	金
14	火	15	水	14	日	31	土	14	土	14	土
15	水	16	木	15	月	31	日	15	日	15	日
16	木	17	火	16	火	31	月	16	月	16	月
17	金	18	水	17	水	31	火	17	火	17	火
18	土	19	木	18	木	31	水	18	水	18	水
19	日	20	金	19	金	31	木	19	木	19	木
20	月	21	火	20	土	31	金	20	金	20	金
21	火	22	水	21	日	31	土	21	土	21	土
22	水	23	木	22	月	31	日	22	日	22	日
23	木	24	火	23	火	31	月	23	月	23	月
24	金	25	水	24	水	31	火	24	火	24	火
25	土	26	木	25	木	31	水	25	水	25	水
26	日	27	金	26	金	31	木	26	木	26	木
27	月	28	火	27	土	31	金	27	金	27	金
28	火	29	水	28	日	31	土	28	土	28	土
29	水	30	木	29	月	31	日	29	日	29	日
30	木	31	火	30	火	31	月	30	月	30	月
31	金			31	水			31	火	31	火

(出典：研究会年間計画)

(資料E-2-4-2) 研究紀要

紀要第63集
〈2年次〉

豊かな「対話」で広がる 創造的な学び

～論理的に思考し、表現する子どもを育む授業方略～



平成26年2月14日(金)
熊本大学教育学部附属小学校

(出典：研究紀要)

(資料E-2-4-3) 学習指導案集

**学習指導案
〈2年次〉**

**豊かな「対話」で広がる
創造的な学び**

～論理的に思考し、表現する子どもを育む授業方略～

平成26年2月14日(金)
熊本大学教育学部附属小学校

(出典：学習指導案集)

観点2-5 研究成果とその公表

(観点に係る状況)

研究内容の成果については、年間1回の初等教育研究発表会を開催し、公開授業と分科会を通して参加者へ発信している。(資料E-2-5-1) また、1年間の研究のまとめとして、研究紀要と学習指導案集を作成し、熊本県教育委員会や熊本市教育委員会、県内各教育事務所、大学関係者、本校元職員、他附属、研究発表会参加者等に配付している。さらに、本校ホームページや年間3回発行の「附属小研究だより」により、年度途中の研究状況を発信している。(資料E-2-5-2)

(中期計画番号64, 66)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

関係機関との連携を図りながら、年度途中及び年度末に計画的に多方面に成果を発信しているため。

(資料E-2-5-1) 本校研究発表会第2次案内状

平成25年度 **研究発表会のご案内**
熊本大学教育学部附属小学校

◆研究主題◆

豊かな「対話」で広がる創造的な学び (2年次)
～論理的に思考し、表現する子どもを育む授業方略～



期日 **平成26年2月14日 (金)**
会場 **熊本大学教育学部附属小学校**

ごあいさつ

新学習指導要領の完全実施から3年経とうとしています。PISA調査や全国学力調査などの結果、日本の子どもたちは論理的に思考し、表現する力が不十分であることが明らかになりました。それを受けて、学校で身につけた知識・技能が実際の社会で生きて働く力となるように、各教科の言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を育てることが求められています。

本校では、子どもたちが根拠(客観的な事実・データ)をもとに、自分なりに理由づけ(事実・データの解釈・推論)をして、自分の意見を主張し、友達と話し合い、考え合うという言語活動の充実を図ることが、思考力・判断力・表現力の育成、さらには応用可能な知識・技能の形成につながると考えて、実践を重ねてまいりました。従来型授業から対話型授業への転換です。

昨年2月14日(金)の研究発表会では、平成21年度から平成23年度まで文部科学省指定の「論理科」で目指してきた論理的思考力の育成をもとに、各教科等で「根拠・理由づけ・主張」という3点セットを生かした言語活動によって、「豊かな「対話」で広がる創造的な学び」がどのように実現するのか、授業実践を通して提案したいと思います。

学年末のご多用な時期とは存じますが、多くの先生方にご参加いただき、忌憚のないご意見を賜り、共にこれからの社会を生きる子どもたちの生きて働く力の育成の実現を目指して、議論を深めたいと思います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

熊本大学教育学部附属小学校
校長 河野 順子

〒860-0081
熊本市中央区京町本丁5番12号
TEL 096(356)2492
FAX 096(356)2499

ホームページ
<http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~elem/>

主催/熊本大学教育学部附属小学校
初等教育研究協議会
後援/熊本県教育委員会
熊本市教育委員会
熊本大学教育学部同窓会

(出典：研究発表会第2次案内状)

(資料E-2-5-2) 附属小研究だより

VOL. 39

平成 26年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより



～研究テーマ～

豊かな「対話」で広がる創造的な学び(3年次)

平成26年度がスタートしました。熊本大学教育学部附属小学校における「豊かな『対話』で広がる創造的な学び」の追究も3年目を迎えました。

現在、学習指導要領では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが謳われています。つまり、基礎的・基本的な内容である知識・技能を「活用」するために、言語活動を通して「思考力、判断力、表現力」等を育てることが指摘されているのです。この背景には、PISA調査や全国学力調査などの結果、日本の子どもたちは論理的に思考し、表現する力が不十分であるということがあげられます。

現在、小・中学校では、こうした言語活動をどのように組織し、どのように思考力・表現力を高めていくかということが大きな課題となっています。そこで、私たちは、全教科を貫く、あるいは小・中学校の学びを貫く一つの教育目標として、子どもたちが根拠(客観的な事実・データ)をもとに、自分なりに理由づけ(事実・データの解釈・推論)をして自分の意見を主張し、話し合い、考え合うという言語活動の充実を図ることが、思考力・判断力・表現力の育成、さらには応用可能な知識・技能の形成につながると考えています。こうした論理的思考力・表現力を子どもたちが自在に活用しながら、他者との対話による協同的学びを通して、新たな知を創造していくという学びの実現です。

本校は、平成21年度から23年度までの3年間、文部科学省委嘱研究校として「論理科カリキュラム開発」で得た知見を各教科の学びの言語活動の充実に生かすべく継続研究を行っています。そこで追究してきた「創造的な学び」のあり様は公立学校にも導入され、学びの輪が全国に広がっています。全国の先生方と共に、これからの社会に生きる子どもたちに必要な学びのあり様をさらに追究していきたいと思っております。

みなさまの恐れないご意見をいただきながら、現代の教育課題に応え、多くの学校に寄与できるような実践研究に取り組んでいきたいと思っております。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 河野 順子

(出典：附属小研究だより)

分析項目Ⅲ 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

観点3-1 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校では、人権教育の視点からの組織や取組は進めているが、男女共同参画に特化した組織はない。
(中期計画番号40、73)

(水準)

期待される水準を下回る。

(判断理由)

男女共同参画の組織がつくられていないため。

観点3-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか

(観点に係る状況)

本校では、男女共同参画に特化した計画は作成していない。(中期計画番号40、73)

(水準)

期待される水準を下回る。

(判断理由)

男女共同参画の計画が作成されていないため。

観点3-3 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

(観点に係る状況)

人権教育や男女共同参画に関する図書は配置されている。(中期計画番号40、73)

(水準)

期待される水準を下回る。

(判断理由)

本校の特性等から男女共同参画に特化した職員組織の推進は厳しい状況であるため。ただ、児童に対する教育指導面や施設設備面では可能な限り進めている。

4. 質の向上度の分析及び判断

(1) 分析項目Ⅰ 教育研究支援

質を維持している

(記述及び理由)

本校の特性に適した入学者を確保するための体制と信頼性のある実施方法・情報公開がなされ、全国的な流れである35人学級への対応を進めているため。また、本校の教育目標を達成するために意図的・計画的な教育課程が編成され、組織的に推進されている。ただ、学習支援については、予算面からくる人材確保と時間確保の点から厳しい状況である。

授業改善に向けての取組が共通理解のもと、関係機関と連携を図りながら組織的に推進されている。また、関係機関との連携を図りながら、年度途中及び年度末に計画的に他方面に成果を発信しているため。

(2) 分析項目Ⅱ 初等中等教育

改善・向上している

(記述及び理由)

入学者の選抜方法については、幼稚園要領をもとにした検査を実施するとともに、附属幼稚園との交流会を年間3回実施したり、日頃からの情報交換を密にしたりして、連絡入学が選抜に反映されるようにしている。

定員については、35人学級対応として、3年前から1学級35人の定員で募集をしており、今後も

その方向で実施する。そのため、平成29年度には、全学級35人定員の在籍となる。過去5年間の定員数は次のとおりである。(1学級36名の現員数としている)

◆ 平成21年度：720名、平成22年度：720名、平成23年度：708名、平成24年度：696名、平成25年度：684名

また、過去5年間の卒業生数は、次の通りである。

◆ 平成21年度119名(男子59名・女子60名)、平成22年度118名(男子59名・女子59名)、平成23年度119名(男子59名・女子60名)、平成24年度120名(男子60名・女子60名)、平成25年度119名(男子59名・女子60名)

教育課程においては、本校の使命を達成するために、明確な教育目標のもとに本年度の重点事項を設定し、組織を整えて教育推進がなされている。

本校の重要な使命である研究や教育実習において、教育学部と連携を密に図り、それをもとに校内において組織的・計画的な推進が行われている。また、常に自己点検を行い達成状況と課題を明確にし、学部・学校評議員・保護者・児童・教育後援会等の指導や助言、要望を踏まえ、それらを部長会や部会で協議・検討し、長期的・短期的に改善をしているため。

(3) 分析項目Ⅲ 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

質を維持しているとはいえない。

(記述及び理由)

男女共同参画の組織や計画がつくられていないため。また、本校の特性等から男女共同参画に特化した職員組織の推進は厳しい状況である。ただ、児童に対する教育指導面や施設設備面では可能な限り進めているため。

Ⅲ 管理運営の領域に関する自己評価

熊本大学教育学部附属小学校

1. 管理運営の目的と特徴

熊本大学教育学部附属小学校は、国立大学法人の附属小学校として、①初等普通教育を行う、②教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその科学的実証を行う、③教育学部学生の教育実習を行う、④公立学校への教育協力と情報提供を行うという四つの使命に基づき管理運営を円滑に行い、諸問題に対応し、改善に努めることを目的とする。

本校の学級編成は、各学年3学級の18学級であり、1年生～3年生は1学級36人、4年生～6年生は1学級40人で全校児童数は684名である。(平成26年度：今後、毎年順次1学級36人となる)職員は、校長は教育学部教授が兼任し、副校長1名、教頭1名、主幹教諭1名、教諭20名、養護教諭1名、栄養教諭1名、事務係長1名、事務職員1名、非常勤講師3名、図書司書1名、PTA事務1名で構成されている。その中で、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭は、熊本県や熊本市との人事交流で本校に赴任している。

本校の運営は、教務部・研究部・教育実習部・生活部・校務部・体育保健部・事務部の七つの部によって行われており、管理職以外の職員はどこかの部に所属している。(非常勤講師・図書司書・PTA事務は除く)定期的に(月1回)、校長・副校長・教頭・主幹教諭・各部長・各学年主任により、行調部長会を開催し、行事調整や学校運営の基本方針や具体的な方策を検討する。部長会で検討・決定されたことを基に、各担当部により企画・運営がなされる仕組みになっている。また、月1回の職員会議を開催し、全職員共通理解のもとに実行・評価・見直しがなされ、教育活動の向上を目指している。

教育学部との連携においては、教育学部・附属学校運営委員会が毎月実施され、校長が出席している。(隔月で副校長も出席)また、年間2回、教育学部・附属学校連絡協議会も開催され、校長と副校長が出席をしている。

保護者の組織としては、毎月1回、企画委員会とPTA役員会を開催し、保護者と学校が一体となった教育の推進を行っている。(年間1回PTA総会を実施)

四附属学校との連携においては、年間一回、四附属合同研修会を実施し、児童の交流会や研究推進を充実させている。特に、附属中学校とは、年間四回、附属小中学校連絡会を実施し、義務教育九年間を見通した教育の推進を図っている。

熊本県教育委員会や熊本市教育委員会との連携について、年間一回、各教育委員会との懇話会を実施している。また、本校職員を依頼に応じて熊本県・市の公立学校の校内研修に講師として派遣し、連携を図った研究推進を行っている。毎年一回実施する本校の研究発表会には、各教科等の分科会の司会者や助言者に熊本県・市の教育委員会指導主事や公立学校の校長・教諭をお願いしている。

他附属との連携については、全国国立大学附属学校連盟や九州地区国立大学附属学校連盟の各部会に職員が出席し、情報収集や情報発信を行いながら、教育活動の充実を図っている。

特徴として次の諸点がある。

1. 研究組織や教育実習の組織体制が整い機能している。
2. 関係機関との連携体制が進み機能している。
3. 教育学部四附属学校園の連携が強化され、具体的活動が充実してきている。
4. PTA組織が整い、活動が充実している。

[想定する関係者とその期待]

関係者は、児童やその保護者、本校卒業生や本校職員OB、教育学部や教育学部他附属、熊本県や熊本市教育委員会や公立学校の教職員である。その期待は、管理運営を通して、学校現場における今日的な教育課題に対応した具体的な授業のあり方や人材育成、働きやすく・やりがいのある学校の姿等を提案できる学校として期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

教育活動において、部長を中心とした推進体制をとっており、個々の意識レベルも高く、部長会・各部会を通して組織的・機能的に教育活動を推進している。また、保護者の協力体制も整い、PTA 役員会を毎月実施するなど、学校と保護者が一体となった教育活動が展開されている。

研究の質的向上においては、本校の使命と関係して職員一人一人の意識レベルが高く、毎週 1 回授業をもとにした研究会や講師を招聘した理論的な研究会を実施している。また、推進体制においても、研究部を中心とした 5 人体制を生かし、毎週の研究部会で検討しながら推進を図っている。

【改善を要する点】

校舎の水漏れや安全面からの課題があるが、予算との関係で十分な対応ができていない。また、教育機器や備品等の整備も予算との関係で十分ではなく、公立と比較してもかなり遅れている。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 1-1 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点到る状況)

管理運営においては、教育学部の附属小学校として、法令や教育学部附属学校規則をもとに、教育学部・附属学校運営委員会や教育学部・附属学校連絡協議会の決定事項等、教育学部の基本方針や具体策を踏まえたうえで進めている。(資料 Z-1-1-1) それらを基本として、年度当初の職員会議において学校経営の基本的な方針を明確にして共通理解を図っている。また、それを達成するための部長を核とした校務分掌を整え、各部長を中心とした校務の役割分担を行っている。

児童の安全確保については、PTA 組織と連携を強化し、登下校の安全パトロールや登下校指導、防災対策を進めている。また、定期的(月 1 回)に全職員による校内の全ての施設設備に関する安全点検を実施し、施設設備面における安全確保を徹底している。緊急時の対策も含めて、危機管理マニュアルを作成して全職員の共通理解・共通実践を推進し、職員や保護者による専門家を招聘しての心肺蘇生法講習会も毎年実施している。(資料 Z-1-1-2~Z-1-1-3)

予算面の管理等については、大学からの予算は事務係長が管理し、PTA 会費等の予算は教頭が管理し、執行については PTA 事務を通して行うようにしている。執行状況等を副校長や PTA 担当者が年間 1 回詳細にチェックし、不正や不適切な執行がないようにしている。なお、PTA 等の資金については、各会の会長のもと監査を受け、総会にて予算案及び決算報告を行い承認を得ている。同窓会資金については、教頭が管理し、同窓会役員会にて決算報告を行い承認を得ている。(資料 Z-1-1-4~Z-1-1-5)

(中期計画番号 6 4)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

学部・附属運営委員会に校長や副校長が出席し、学部の方針と本校の実態を細部にわたり共通理解を図りながら具体的に学校経営を行っている。また、校長経験の副校長や教頭経験の教頭、主幹教諭が配置され、管理面でも他の附属学校に比べ組織体制が整ってきている。また、熊本市の広範囲に校区を有する本校の特徴を踏まえ、保護者による登下校指導や児童一人一人の防犯グッズ整備など、保護者と学校が一体化となった安全面の取組により、事故や事件に児童が巻き込まれる事が発生していない。さらに、近隣の小・中学校 1 1 校の教職員と保護者による交流会の実施や本校が開催する「附属小オープンスクール」の地域への発信により、地域との連携が密になってきている。

(資料Z-1-1-1) 附属学校規則

熊本大学教育学部附属学校規則の一部改正(案)新旧対照表 H26. 3. 17	
新	旧
<p>第1章 総則 (趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、熊本大学学則(平成16年4月1日制定、以下「学則」という。) 第7条第2項の規定に基づき、熊本大学教育学部の附属学校(以下「附属学校」という。)に関し必要な事項を定める。 (附属学校の目的)</p> <p>第2条 附属学校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する教育又は保育を行うとともに、熊本大学教育学部(以下「教育学部」という。)の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。 (1) 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその実証を行うこと。 (2) 教育学部学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 (3) 地方の教育に協力すること。 (附属学校連絡協議会)</p> <p>第3条 附属学校の運営上特に必要な事項並びに教育学部と附属学校及び附属学校相互間の連絡調整を図るために、附属学校連絡協議会を置く。 2 附属学校連絡協議会に関し必要な事項は、別に定める。 (附属特別支援学校の組織)</p> <p>第4条 附属特別支援学校(以下「特別支援学校」という。)に、次の部を置く。 小学部 中学部 高等部 (職員)</p> <p>第5条 学則第16条第1項に定めるもののほか同条第2項の規定に基づき、次に掲げる附属学校ごとに、次の職員を置く。 (1) 附属小学校 主幹教諭 栄養教諭 (2) 附属中学校 主幹教諭 (3) 特別支援学校 栄養教諭</p>	<p>第1条 この規則は、熊本大学学則(平成16年4月1日制定)第7条第2項の規定に基づき、熊本大学教育学部の附属学校(以下「附属学校」という。)に関し必要な事項を定める。</p> <p>第2条 (同左)</p> <p>第3条 (同左)</p> <p>2 (同左) (新設)</p> <p>(職員組織)</p> <p>第4条 附属学校に、次の職員を置く。 (新設) (新設) (新設)</p>

(出典：附属学校規則の一部改正(案)新旧対照表)

(資料Z-1-1-2) 学校危機管理マニュアル

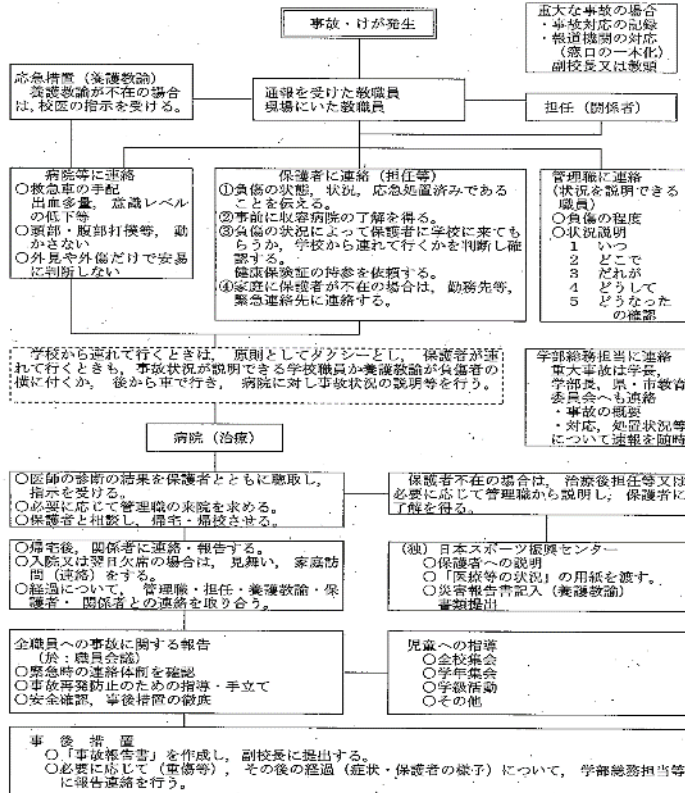


目 次

I	学校事故に関わる危機管理	1
1	学校事故とは	1
2	危機管理上の学校事故という点での分類	1
3	その要因として	1
4	危機管理体制の整備と予防策	1
II	児童の事故発生時の対応（基本的対応）	2
III	児童指導上の問題発生時の対応	3
1	問題行動への基本的対応	3
2	不登校への対応	3
3	予防や対応上での留意事項	3
IV	体罰発生時の対応	4
1	体罰の起こりやすい理由について	4
2	体罰の起こりやすい状況について	4
3	「体罰」事故発生後の対応	4
4	防止対策	4
V	セクシャル・ハラスメント問題発生当時の対応	4
1	基本的対応	4
(1)	相手が大人の場合	4
(2)	相手が児童の場合	5
2	予防策	5
3	セクシャル・ハラスメント防止の申し合わせ事項及び対応策	5
4	相談対応上の留意点	5
VI	職員の事故発生時の留意点	6
1	基本的対応	6
2	交通事故の場合	6
3	予防策	6
4	職員事故防止（交通事故防止を含む）申し合わせ事項	6
VII	学校施設及び器物破損事故、盗難事故発生時の対応（風水害による場合を含む）	7
1	基本的対応	7
2	学校施設及び器物破損事故の場合	8
3	盗難事故等防止の申し合わせ事項及び対応策	8
4	風水害発生の場合	8
VIII	不審者侵入等に対する危機管理	9
1	不審者侵入を未然に防ぐための対策	9
2	不審者侵入時の緊急対応	10
3	不審者のチェックと対応	11
IX	毒物や不審な郵便物への対応	14
1	薬品管理	14
2	不審な郵便物	14
X	その他への対応	14
1	不審者からの電話等による児童の呼び出しや誘拐未遂への対応 他	14

備考 ○関係機関等の連絡先
○学校安全管理についての改善事項

II 児童の事故発生時の対応（基本的対応）



（出典：学校危機管理マニュアル）

(資料Z-1-1-3) 安全点検記録

点検場所		平成26年度 安全点検記録表												点検者 (氏名)	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	避難訓練														
2	地震訓練														
3	防災訓練														
4	安全訓練														
5	安全教育														
6	安全管理														
7	安全管理														
8	安全管理														
9	安全管理														
10	安全管理														
11	安全管理														
12	安全管理														
13	安全管理														
14	安全管理														
15	安全管理														

(出典：安全点検記録)

(資料Z-1-1-4) P T A総会資料

平成26年度

P T A 定時総会

本年度テーマ

広げよう140年の【わ】 ～子どもたちのために 目配り・気配り・心配り～

会 順

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 校長あいさつ
- 4 定数確認
- 5 議長選出
- 6 議事Ⅰ
 - 1) 平成25年度事業報告
 - 2) 平成25年度決算報告
 - 3) 監査報告(承認)
 - 4) 指名委員会報告(承認)
 - 5) 平成26年度役員指名(承認)
 - 6) 新旧会長あいさつ
- 7 議事Ⅱ
 - 1) 平成26年度事業計画案
 - 2) 平成26年度予算案(承認)
 - 3) P T A会則の改正について(承認)
 - 4) 児童・保護者の保険加入について(承認)
- 8 新会員紹介
- 9 職員紹介
- 10 P T Aクラブ紹介
- 11 その他
 - 1) 学校から
 - 2) 厚生委員から
- 12 閉 会

日 時 : 平成26年4月22日(火) 14:00~15:10

場 所 : 附属小学校体育館

熊本大学教育学部附属小学校 P T A

(出典: P T A総会資料)

(資料Z-1-1-5) 同窓会役員会資料

平成26年度同窓会役員会資料

1 日 時 平成26年5月22日(木) 10:30～

2 場 所 附属小学校 1F 会議室

3 出席者 会 長

副 会 長

常任幹事

顧 問

実行委員長

校 長

副 校 長

教 頭

主幹教諭

4 内 容 (1) 同窓会役員人事

(2) 創立140周年記念祝賀会について

(3) 情報交換

(4) その他

熊本大学教育学部附属小学校

(出典：同窓会役員会資料)

観点1-2 構成員（教職員及び児童）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

職員については、人事評価制度の自己評価に関係して、管理職（校長・副校長・教頭）が一人一人との面談を実施し、意見を聴衆して教育活動の実施と改善に生かしている。また、毎学期反省を実施し、職員会議等で検討・共通理解をしている。

児童及び保護者については、年度末に4年生以上の全児童と全保護者による学校評価を依頼し、結果・分析・今後の方向性の点から公表している。また、毎月1回定例の企画委員会・PTA役員会を実施し、保護者と学校が一体となった教育活動の推進を図っている。（再掲資料E-1-3-1～E-1-3-2）

外部評価については、学校評議員会を年間3回実施し、指導助言を受け、教育活動に生かしている。また、熊本県・市教育委員会と年間1回、教育学部長・副学部長・事務長も出席する連絡会を実施し、附属学校あり方も踏まえた話し合いを行い、学校経営等に生かしている。（再掲資料E-1-3-3）

（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

意見やニーズを把握する組織や連携態勢、具体的な取組が実施され、検討・分析する組織が整えられ、具体策な教育活動の改善に反映されているため。

(再掲資料E-1-3-1) 学校評価

平成25年度 学校の教育活動等の評価

()年()組 氏名()

※子どもさんの様子等から、あてはまると思われるところに○をつけてください。

(保護者の方で記入ください)

【評価の段階】 4：とてもそう思う 3：ややそう思う
2：あまりそう思わない 1：そう思わない

評価項目	No.	評価の内容	評価
自主・自立の教育	1	楽しく学習し、学習の内容が分かっていると思いますか。	4-3-2-1
	2	学習の仕方や習慣が身についていると思いますか。	4-3-2-1
	3	自然に関することや社会の出来事に興味や関心があると思いますか。	4-3-2-1
	4	掃除、ボランティア等に対して進んで取り組んでいると思いますか。	4-3-2-1
個性重視の教育	5	学校で自分のやりたいことや好きなことができていますか。	4-3-2-1
	6	自分でできることは自分で考え行動しようとしていますか。	4-3-2-1
	7	あいさつや皆で協力する活動に進んで取り組んでいると思いますか。	4-3-2-1
	8	係りや委員会(高学年)の仕事に進んで取り組んでいると思いますか。	4-3-2-1
自他の尊重と 心の教育	9	友達と仲良く学校生活を送っていると思いますか。	4-3-2-1
	10	友達や生き物に優しく接しようとしていますか。	4-3-2-1
	11	健康な体のために運動や食事、睡眠等に気をつけていますか。	4-3-2-1
	12	安全やマナーに気をつけて登下校をしていると思いますか。	4-3-2-1
教育環境の整備	13	先生は、子どもに寄り添った指導や対応をしていますか。	4-3-2-1
	14	安全な環境づくりができていますか。	4-3-2-1
	15	花壇や掲示等、親しいのある環境づくりができていますか。	4-3-2-1
	16	教育機器等の学習環境の活用や整備はできていますか。	4-3-2-1
保護者との連携	17	学校の行事や授業等への参加はしやすいと思いますか。	4-3-2-1
	18	担任の先生などに心配事や気になる事を相談しやすいと思いますか。	4-3-2-1
	19	子どものために学校と保護者が協力していると思いますか。	4-3-2-1
	20	学級や学校の様子がよく分かりますか。	4-3-2-1

自由記述欄

(出典：学校評価)

(再掲資料E-1-3-2) 学校評価のまとめ

学校評価まとめ

平成25年度末に実施した学校評価の結果をお知らせいたします。この結果を生かして、さらに附属小教育活動の質を保護者の方々とともに高めていけたらと考えております。ご協力ありがとうございました。

【成果】

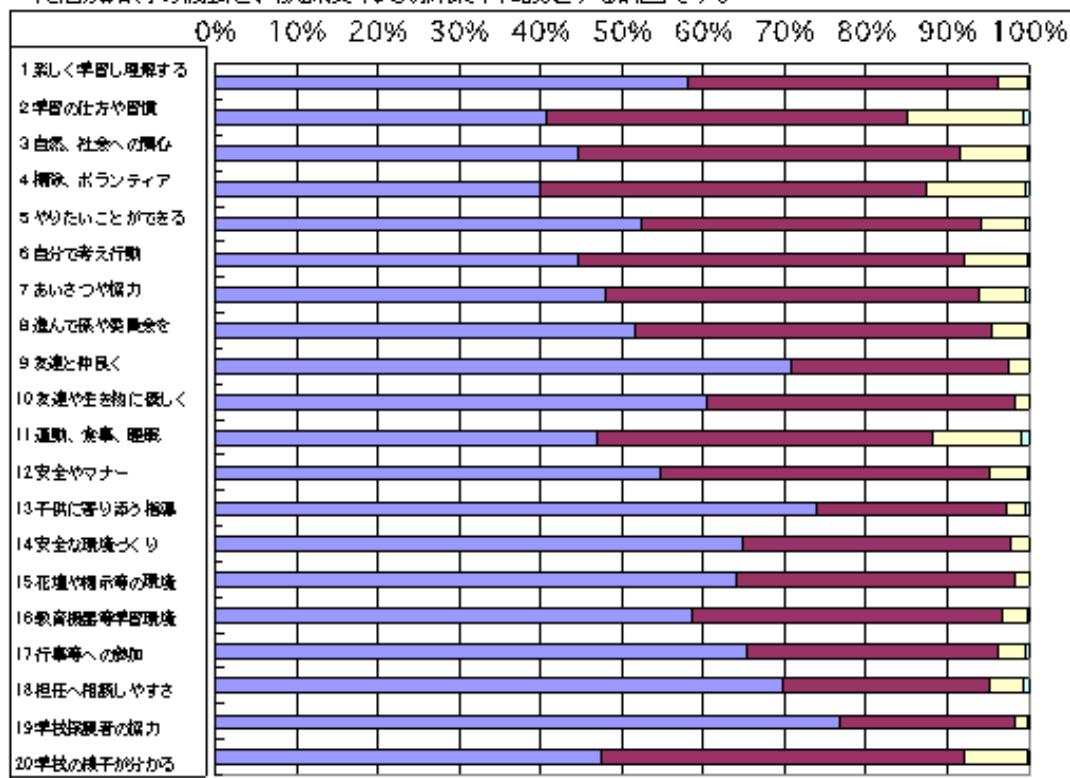
- 20項目中17項目で90%以上が肯定的な評価であり、そのうち12項目が95%以上の高い評価であった。
- 昨年度の評価と比較すると、ほとんどの項目で改善がみられた。特に、「項目3：自然や社会への興味関心」「項目20：学級や学校の様子がよく分かる」のポイントが高くなっている。

【課題と対策】

- 他項目と比べやや低い評価であったのが、「項目2：学習の仕方や習慣が身に付いている」「項目4：掃除 ボランティア等に進んで取り組んでいる」「項目11：健康な体のために運動や食事、睡眠等に気をつけている」の3項目でした。
 - ⇒ 本年度は朝のボランティア活動や学校保健委員会、教育講演会等の内容充実とともに、健康教育と関連づけた食育の推進を図りたいと思います。また、項目2の評価については、保護者の期待の高さによるかと考えますが、学年の発達段階や個に応じた指導を強化したいと思います。
- 「項目6：自分でできることは自分で考え行動する」と「項目14：安全な環境づくりができている」、「15：花壇や掲示等、潤いのある環境づくりができている」の3項目が昨年度に比べ若干低下していました。
 - ⇒ 項目6については、自分がやるべき事であっても、面倒なことやきついことを避ける傾向があるのは事実です。道徳教育の充実とともに、「任せて褒める指導」を意識した子ども主体の活動をさらに意識していきたいと思います。また、教育環境については、安心安全を第一に考え、大学や教育後援会への要望を継続しながら、PTA環境委員会や保護者ボランティアと連携して潤いのある環境づくりに努めていきたいと思います。

【自由記述より】

- 学習内容の定着に対する不安感：学年・学校全体を裨利に入れて、基礎基本の定着を目的とした個別指導の機会を、放課後や長期休業中に設定する計画です。



(出典：学校評価のまとめ)

(再掲資料 E-1-3-3) 学校評議員会記録、熊本県・市教育委員会連絡会資

平成26年度 第1回学校評議員会議事録

1 日 時

平成26年6月24日(火) 9:30~11:30

2 場 所

附属小学校校長室

3 参加者

【学校評議員】

【学校側】

4 日 程

委嘱状交付 9:20~

- (1)開会 9:30
- (2)校長挨拶 9:30~ 9:40
- (3)学校の現状報告 9:40~ 9:50
- (4)意見交換・助言 9:50~10:50
- (5)閉会

※ 授業参観 10:50~11:30

5 主な内容

- (1) 開会 (坂本教頭)
- (2) 校長挨拶 (河野校長)

日頃から本校教育にご支援いただきありがとうございます。学校では本年度も、新たな教育活動を展開している。教育環境として、体育館の改修が無事終了して子どもたちも大変喜んでいいる。給食センターは現在撤去作業が終了し、来年2月末に完成予定である。今年度、新しくお二人の方に学校評議員をお願いする。ご指導、ご支援をお願いしたい。

- (3) 学校の状況報告 (志波典明 副校長)

- ・ 本年度教職員数及び児童数
- ・ 平成25年度末教職員移動状況
教諭3名、栄養教諭1名、養護教諭1名、非常勤講師1名
- ・ 学校評議員 2名交代
- ・ 教育実習 4年次実習 4月21日~5月14日
3年時実習 6月6日~11日、9月8日~22日

料

2年時実習 9月12日、16日、19日

特別別科 9月22日～10月17日

- ・ 行事、研究関係
- ・ 施設設備関係 体育館改修 本年度4月完成
給食センター 来年度2月末完成予定

(4) 意見交換・助言

- ◆ 人事異動については附属小・中の人事異動もあっていいのではないかと。また、文科省の方針として連絡入学、小中一貫についての考え方はどうか。
 - ・ 文科省は、小中一貫を期待するといった程度である。ただ、幼小連携、小中連携については、小1プロブレム、中一ギャップ等の問題もあり、先進的な取り組みが附属学校に求められている。また、理数教科の強化や論理的思考力などについても先導的な取り組みを期待されている。
- ◆ 学習指導要領シンポジウムについて、以前から附属不要論があり、附属が変わっていく必要がある。附属が絶対に必要であるという資料・データが必要である。
 - ・ 学習指導要領シンポジウムは今年で5年目となる。附属不要論というよりも大学の存続がかかっている。附属との連携、地域（教育委員会等）との連携が重要である。そういう意味でも、県教育委員会後援、市教育委員会共催で実施している。
- ◆ 最近では、公立学校でも生きる力・考える力・地域との連携などについては力を入れて取り組んでいる。附属は視点を変えてもっとハイレベルな研究を進めていかなければならないのではないかと。医学部で言えば大学との基礎研究のようなレベル。
 - ・ そのとおりであり、教育で言えば発達研究がそれに当てはまる。大学研究者の意識も変えていく必要がある。
- ◆ 県として、また、市としては附属との関係をどのように考えているのだろうか。人事交流以外でのつながりはどうなっているのか。附属に何を求めているのか。
 - ・ 研究発表会の助言者に県や市教委から入っていただいたり、学習指導要領シンポジウムも市からは共催をいただいているのはその一つである。
 - ・ 熊本市が事業をする際に、本校教官を派遣するなど、委員会と相談している状況である。ただ、人事面では委員会の考えとのズレがある。それは、よい人材を附属に派遣するので3年間で戻してほしいと言われた。本校を市の研修機関として位置づけようとしている。本校としては、そのまま受け入れることはできない。今後も協議を継続していく必要がある。
- ◆ 体力テストについて、握力が6年生以外県平均より低いということがどうだろうか。
 - ・ 計測機器の使用法に問題があったのではないかと。特に握力計については、握りの深さや角度等ちょっとした事で違った結果になることがある。体育担当に確認してみたい。

- ◆ いじめ防止の方針等を作成されていると聞いたが、本校での実態や保護者からの意見等について何か気になることなどはないか。
- ・ 現在、本校には不登校児童はいない。ただ、怠学気味で油断をすると不登校になりかねない児童はいる。家庭の教育力が低下してきている。準要保護児童が24名いる。知能偏差値40台、中には30台の児童もいる。以前より増加傾向にあり、個に応じた対応も必要になってきている。いじめアンケートは現在集計中であるが、6年生で1件発生している。アンケート結果を元に、全学級で教育相談の参考にしたい。
- ◆ 標準学力検査の結果で、一昨年度と比べて昨年度の結果の学力成就値が1.6低下している。
- ・ 思考力、表現力のみならず基礎的、基本的事項についての定着についても一層努力していきたい。
- ◆ 外部の相談員と相談するような部屋は設置されているのだろうか。ほとんどの熊本市内の公立学校では、設置されていると聞いた。また、市と連携して外部の相談員の方に相談したりすることはできるのだろうか。
- ・ 相談員の方は熊大でも確保できているが、ハード面では設置できていない。適当な部屋がないのが現状である。ユアフレンド事業については、本校も活用できるようになった。昨年度、1件相談する事案があったが、直前になって保護者の方が必要ないと言って来られた。不登校になってからの相談も必要だが、そうなる前の相談もできるようにしていきたい。

(5) 閉会（坂本教頭）

※ 授業参観・校内巡視

（出典：学校評議会記録）

観点1-3 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質向上のための取組が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）

職員の研修については、学校の教育目標達成に向けての教師像として、年度当初全職員に明示している。それを踏まえ、研究部を中心に年間の基本方針と計画を示し、計画的に実施している。また、職員一人一人の自己研鑽を推進するため、希望に応じて積極的に県外等への研修を承認している。さらに、熊本県や熊本市の公立学校や教科等研究組織からの講師派遣の要請についても、校務に支障がない限り、積極的に職員を派遣している。（資料Z-1-3-1）（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

自己研鑽に対する職員の意識が高く、それに対応する体制が整えられているため。

(資料Z-1-3-1) 年間講師派遣一覧

平成25年度 校内研修等依頼

No.	希望期日	決定期日	曜日	決定時刻	学校名	氏名	教科等	備考
1	5月13日	5月13日	月	14:00	熊本市立城東小		国語	校内研講師
2	2月1日			14:00	熊本市立城東小		国語	自主研
3	9月30日			14:00	熊本市立城東小		算数	校内研講師
4	7月11日	7月11日	木	14:00	熊本市立壺川小		国語	校内研講師
5	7月29日	7月29日	月	14:00	熊本市立清水小		国語	校内研講師
6	6月5日	6月5日	水	14:05	美里町立中央小		算数	校内研講師
7	6月10日	6月10日	月	14:00	熊本市立碩台小		国語	校内研講師
8	7月2日	7月2日	火	15:15	熊本市立碩台小		国語	校内研講師
9	9月27日	9月27日	金	14:00	熊本市立碩台小		国語	自主研
10	9月27日	9月27日	金	14:00	熊本市立碩台小		国語	自主研
11	7月29日	7月29日	月	9:00	山鹿市教育会国語部会		国語	講話
12	7月1日	7月1日	月	14:25	熊本市立園園小		算数	校内研講師
13	11月25日	11月25日	月	14:00	熊本市立春竹小		算数	校内研講師
14	10月28日	10月28日	月	14:00	熊本市立田迎小		国語	校内研講師
15	7月9日	7月9日	火	14:00	熊本市立北部中		図工	校内研講師
16	11月25日	11月25日	月	14:00	熊本市立健軍小		国語	校内研講師
17	6月19日	6月19日	水	13:15	山都町立矢部小		国語	校内研講師
18	1月27日	1月27日	月	14:00	熊本市立吉松小		理科	校内研講師
19	10月28日	10月28日	月	14:00	熊本市立託麻南小		国語	校内研講師
20	7月3日	7月3日	水	14:00	合志市立西合志東小		国語	校内研講師
21	1月23日	1月23日	木	14:00	合志市立西合志東小		国語	研究発表会
22	8月6日	8月6日	火	9:00	玉名市立築山小		家庭	玉名市家庭科研
23	11月18日	11月18日	月	14:00	熊本市立慶徳小		国語	校内研講師
24	6月28日	6月28日	金	13:00	山鹿市立中富小		前任者	自主研究発表
25	6月26日	6月26日	水	14:00	山都町立蘇陽小		国語	校内研講師
26	8月12日	8月12日	月	9:00	フードバル		国際理解	講師
27	10月28日	10月28日	火	14:00	清水小学校		国語	校内研講師
28	10月4日	10月4日	金	14:00	山鹿小学校		国語	山鹿市国語研
29	10月4日	10月4日	金	14:00	三ツ川小学校		国語	校内研講師
30	11月11日	11月11日	月	14:00	熊本市立園園小		算数	校内研講師
31	10月30日	10月30日	水	14:00	美里町立中央小		算数	校内研講師
32	10月16日	10月16日	水	14:00	広安小校内研		算数	校内研講師

(出典：年間講師派遣一覧)

熊本大学教育学部附属小学校 分析項目Ⅱ

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること

観点2-1 活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

年度末に実施する学校評価や年度途中に実施する学期反省等をもとに、校内の部長会や部会において検討・分析し、次の教育活動の充実に生かしている。(再掲資料E-1-3-1～E-1-3-2)

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

根拠となる適切なデータや意見をもとに状況を把握し、教育活動に反映するための組織を整えているため。

(再掲資料E-1-3-1) 学校評価

平成25年度 学校の教育活動等の評価

()年()組 氏名()

※子どもさんの様子等から、あてはまると思われるところに○をつけてください。

(保護者の方で記入ください)

【評価の段階】 4：とてもそう思う 3：ややそう思う
2：あまりそう思わない 1：そう思わない

評価項目	No.	評 価 の 内 容	評 価
自主・自立の教育	1	楽しく学習し、学習の内容が分かっていると思いますか。	4—3—2—1
	2	学習の仕方や習慣が身についていると思いますか。	4—3—2—1
	3	自然に関することや社会の出来事に興味や関心があると思いますか。	4—3—2—1
	4	掃除、ボランティア等に対して進んで取り組んでいると思いますか。	4—3—2—1
個性重視の教育	5	学校で自分のやりたいことや好きなことができていますか。	4—3—2—1
	6	自分でできることは自分で考え行動しようとしていると思いますか。	4—3—2—1
	7	あいさつや皆で協力する活動に進んで取り組んでいると思いますか。	4—3—2—1
	8	係りや委員会(高学年)の仕事に進んで取り組んでいると思いますか。	4—3—2—1
自他の尊重と 心の教育	9	友達と仲良く学校生活を送っていると思いますか。	4—3—2—1
	10	友達や生き物に優しく接しようとしていると思いますか。	4—3—2—1
	11	健康な体のために運動や食事、睡眠等に気をつけていると思いますか。	4—3—2—1
	12	安全やマナーに気をつけて登下校をしていると思いますか。	4—3—2—1
教育環境の整備	13	先生は、子どもに寄り添った指導や対応をしていると思いますか。	4—3—2—1
	14	安全な環境づくりができていますか。	4—3—2—1
	15	花壇や掲示等、潤いのある環境づくりができていますか。	4—3—2—1
	16	教育機器等の学習環境の活用や整備はできていますか。	4—3—2—1
保護者との連携	17	学校の行事や授業等への参加はしやすいと思いますか。	4—3—2—1
	18	担任の先生などに心配事や気になる事を相談しやすいと思いますか。	4—3—2—1
	19	子どものために学校と保護者が協力していると思いますか。	4—3—2—1
	20	学級や学校の様子がよく分かると思いますか。	4—3—2—1
自由記述欄			

(出典：学校評価)

(再掲資料E-1-3-2) 学校評価のまとめ

学校評価まとめ

平成25年度末に実施した学校評価の結果をお知らせいたします。この結果を生かして、さらに附属小教育活動の質を保護者の方々とともに高めていけたらと考えております。ご協力ありがとうございました。

【成果】

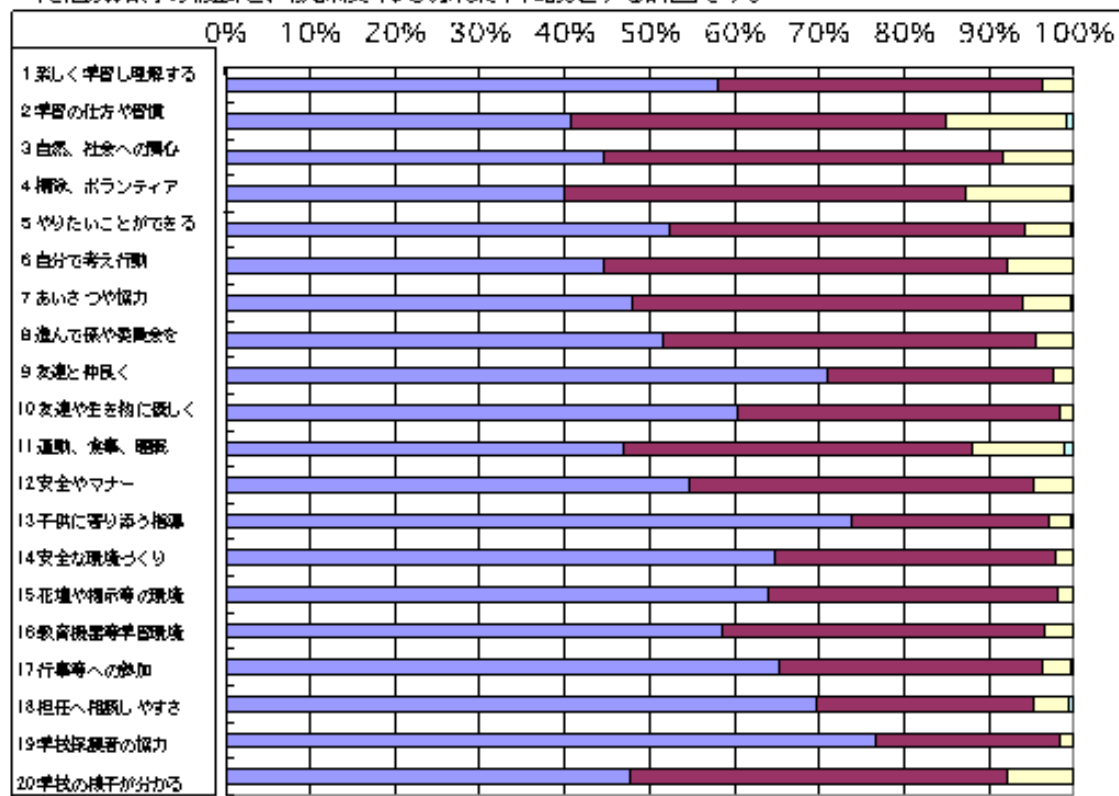
- 20項目中17項目で90%以上が肯定的な評価であり、そのうち12項目が95%以上の高い評価であった。
- 昨年度の評価と比較すると、ほとんどの項目で改善がみられた。特に、「項目3：自然や社会への興関心」「項目20：学級や学校の様子がよく分かる」のポイントが高くなっている。

【課題と対策】

- 他項目と比べやや低い評価であったのが、「項目2：学習の仕方や習慣が身に付いている」「項目4：掃除、ボランティア等に進んで取り組んでいる」「項目11：健康な体のために運動や食事、睡眠等に気をつけている」の3項目でした。
 - ⇒ 本年度は朝のボランティア活動や学校保健委員会、教育講演会等の内容充実とともに、健康教育と関連づけた食育の推進を図りたいと思います。また、項目2の評価については、保護者の期待の高さによると考えますが、学年の発達段階や個に応じた指導を強化したいと思います。
- 「項目6：自分でできることは自分で考え行動する」と「項目14：安全な環境づくりができている」、「15：花壇や掲示等、潤いのある環境づくりができている」の3項目が昨年度に比べ若干低下していました。
 - ⇒ 項目6については、自分がやるべき事であっても、面倒なことやきついことを避ける傾向があるのは事実です。道徳教育の充実とともに、「任せて褒める指導」を意識した子ども主体の活動をさらに意識していきたいと思います。また、教育環境については、安心安全を第一に考え、大学や教育後援会への要望を継続しながら、PTA環境委員会や保護者ボランティアと連携して潤いのある環境づくりに努めていきたいと思います。

【自由記述より】

- 学習内容の定着に対する不安感：学年・学校全体を視野に入れて、基礎基本の定着を目的とした個別指導の機会を、放課後や長期休業中に設定する計画です。



(出典：学校評価のまとめ)

観点2-2 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点に係る状況）

学校評議員会を年間3回実施し、指導助言を受けて教育活動の充実を図っている。（再掲資料E-1-3-3）（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

本校の使命等をよく理解された評議員を選出し、学校評議員会において適切な指導助言をいただき、教育活動の改善に生かしているため。

(再掲資料E-1-3-3) 学校評議員会記録

平成26年度 第1回学校評議員会議事録

1 日 時

平成26年6月24日(火) 9:30~11:30

2 場 所

附属小学校校長室

3 参加者

【学校評議員】

【学校側】

4 日 程

委嘱状交付 9:20~

- (1)開会 9:30
- (2)校長挨拶 9:30~ 9:40
- (3)学校の現状報告 9:40~ 9:50
- (4)意見交換・助言 9:50~10:50
- (5)閉会

※ 授業参観 10:50~11:30

5 主な内容

(1) 開会 (坂本教頭)

(2) 校長挨拶 (河野校長)

日頃から本校教育にご支援いただきありがとうございます。学校では本年度も、新たな教育活動を展開している。教育環境として、体育館の改修が無事終了して子どもたちも大変喜んでいいる。給食センターは現在撤去作業が終了し、来年2月末に完成予定である。今年度、新しくお二人の方に学校評議員をお願いする。ご指導、ご支援をお願いしたい。

(3) 学校の状況報告 (志波典明 副校長)

- ・ 本年度教職員数及び児童数
- ・ 平成25年度末教職員移動状況
教諭3名、栄養教諭1名、養護教諭1名、非常勤講師1名
- ・ 学校評議員 2名交代
- ・ 教育実習 4年次実習 4月21日~5月14日
3年時実習 6月6日~11日、9月8日~22日

2年時実習 9月12日、16日、19日

特別別科 9月22日～10月17日

- ・ 行事、研究関係
- ・ 施設設備関係 体育館改修 本年度4月完成
給食センター 来年度2月末完成予定

(4) 意見交換・助言

- ◆ 人事異動については附属小・中の人事異動もあっていいのではないかと。また、文科省の方針として連絡入学、小中一貫についての考え方はどうか。
- ・ 文科省は、小中一貫を期待するといった程度である。ただ、幼小連携、小中連携については、小1プロブレム、中一ギャップ等の問題もあり、先進的な取り組みが附属学校に求められている。また、理数教科の強化や論理的思考力などについても先導的な取り組みを期待されている。
- ◆ 学習指導要領シンポジウムについて、以前から附属不要論があり、附属が変わっていく必要がある。附属が絶対に必要であるという資料・データが必要である。
- ・ 学習指導要領シンポジウムは今年で5年目となる。附属不要論というよりも大学の存続がかかっている。附属との連携、地域（教育委員会等）との連携が重要である。そういう意味でも、県教育委員会後援、市教育委員会共催で実施している。
- ◆ 最近、公立学校でも生きる力・考える力・地域との連携などについては力を入れて取り組んでいる。附属は視点を変えてもっとハイレベルな研究を進めていかなければならないのではないかと。医学部で言えば大学との基礎研究のようなレベル。
- ・ そのとおりであり、教育で言えば発達研究がそれに当てはまる。大学研究者の意識も変えていく必要がある。
- ◆ 県として、また、市としては附属との関係をどのように考えているのだろうか。人事交流以外でのつながりはどうなっているのか。附属に何を求めているのか。
- ・ 研究発表会の助言者に県や市教委から入っていただいたり、学習指導要領シンポジウムも市からは共催をいただいたりしているのはその一つである。
- ・ 熊本市が事業をする際に、本校教官を派遣するなど、委員会と相談している状況である。ただ、人事面では委員会の考えとのズレがある。それは、よい人材を附属に派遣するので3年間で戻してほしいと言われた。本校を市の研修機関として位置づけようとしている。本校としては、そのまま受け入れることはできない。今後も協議を継続していく必要がある。
- ◆ 体力テストについて、握力が6年生以外県平均より低いということがどうだろうか。
- ・ 計測機器の使用法に問題があったのではないかと。特に握力計については、握りの深さや角度等ちょっとした事で違った結果になることがある。体育担当に確認してみたい。

- ◆ いじめ防止の方針等を作成されていると聞いたが、本校での実態や保護者からの意見等について何か気になることなどはないか。
- ・ 現在、本校には不登校児童はいない。ただ、怠学気味で油断をすると不登校になりかねない児童はいる。家庭の教育力が低下してきている。準要保護児童が24名いる。知能偏差値40台、中には30台の児童もいる。以前より増加傾向にあり、個に応じた対応も必要になってきている。いじめアンケートは現在集計中であるが、6年生で1件発生している。アンケート結果を元に、全学級で教育相談の参考にしたい。
- ◆ 標準学力検査の結果で、一昨年度と比べて昨年度の結果の学力成就値が1.6低下している。
- ・ 思考力、表現力のみならず基礎的、基本的事項についての定着についても一層努力していきたい。
- ◆ 外部の相談員と相談するような部屋は設置されているのだろうか。ほとんどの熊本市内の公立学校では、設置されていると聞いた。また、市と連携して外部の相談員の方に相談したりすることはできるのだろうか。
- ・ 相談員の方は熊大でも確保できているが、ハード面では設置できていない。適当な部屋がないのが現状である。ユアフレンド事業については、本校も活用できるようになった。昨年度、1件相談する事案があったが、直前になって保護者の方が必要ないと言って来られた。不登校になってからの相談も必要だが、そうなる前の相談もできるようにしていきたい。

(5) 閉会（坂本教頭）

※ 授業参観・校内巡視

（出典：学校評議員会記録）

観点2-3 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

（観点到係る状況）

校内の部長会において、検討・分析・方向性を吟味し、それを受けて各部会において、改善のための具体策を立案・実行を行っている。また、必要に応じてPTA組織にも情報発信をし、学校と一体化したPTAの取組も実施している。（中期計画番号66）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

改善のための組織が整っているため。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果されていること。＜教育情報の公表＞

観点3-1 目的が適切に公表されるとともに、構成員に周知されているか。

(観点に係る状況)

教職員が各種研修会に参加して得た情報については、校内研究会において職員に還元され、研究推進に生かされている。また、本校のホームページや研究関係の刊行物を通して、研究内容や方法として広く発信している。

保護者や地域住民に対しては、本校の使命や教育活動及び組織の特徴について、選考考査説明会や新1年保護者説明会、本校ホームページにおいて情報発信をしている。(資料Z-3-1-1)

本校教育活動についての評価は、学期毎の職員による学期反省をもとに全職員で共有している。また、保護者については年度末に実施する学校評価を、保護者向けのPTA広報誌にて公表している。(資料Z-3-1-2) (中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教職員間及び保護者、一般に向けて、本校教育に関する適切な情報を、その情報内容や対象を踏まえた方法で発信しているため。

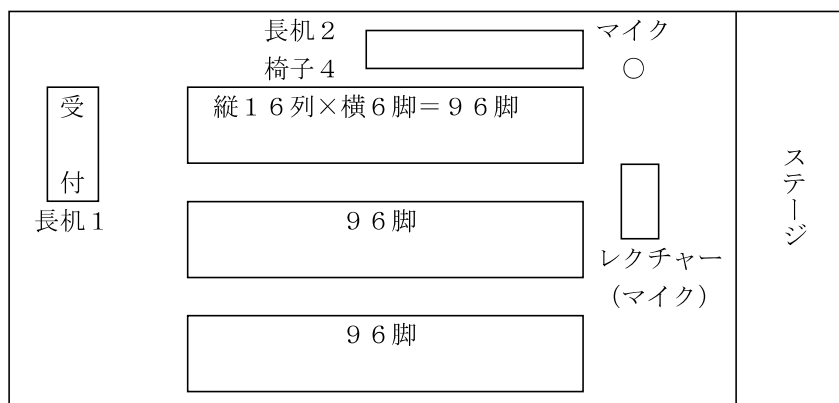
(資料Z-3-1-1) 入学者説明会資料

平成26年度入学者募集説明会運営計画

平成25年11月19日
熊本大学教育学部附属小学校

- 1 目的
来年度入学児童の公正な入学選考の実施と適正な運営を図る。
- 2 期日
平成25年11月25日(月) 午前10時～12時
- 3 場所
熊本大学教育学部附属中学校体育館
- 4 説明会
 - 受付 9:30～10:00 (10:00にドアを閉める:事務部)
 - ※進行:教頭
 - (1) 開会(進行) 10:00
 - (2) 校長あいさつ(校長) 10:05～10:10
 - (3) 附属小学校の特色と入試の説明(副校長) 10:10～10:40
 - (4) 提出書類と入試当日の日程について(教頭) 10:40～11:00
 - (5) 質疑(進行) 11:00～
 - (6) 閉会(進行)
- 5 係り分担
 - 提出書類準備 [黒塗り]
 - 受付場設営、受付 [黒塗り]
 - マイク等(プロジェクター、スクリーン、ドラムコード) 準備 [黒塗り]
 - 会場作り(5年部) ※当日朝8:15～
 - 後片付け(5年部) ※当日昼休み12:20～

※会場図(附属中学校体育館)



(出典:入学者説明会資料)

(資料 Z - 3 - 1 - 2) 職員会議記録

平成26年度1学期の学校評価

平成26年6月30日 教務部

1 教育目標の具現化（明るい子強い子考える子）

明るい子 平均 4.0

- 明るい挨拶をする子が増えている。
- 生活委員会のがんばりもあり、あいさつがよくなったと感じる。
- 挨拶が場所や相手によって違うことが気になる。どんな場でも気持ちのよい挨拶ができるよう、指導する必要がある。朝の挨拶運動についても本当に頑張っている子どもを褒め、全体の意識を高めていきたい。
- 学年に応じた挨拶ができています。
- 高学年も自分から挨拶をする子どもが増えてきている。
- 挨拶がよくなってきている。集会での呼びかけや運営委員会の朝の挨拶運動など子どもたちの力でのびているのがすばらしい。しかし、まだまだ全体としては足りないと思う。
- 集会でよい挨拶について具体的に紹介され、子どもたちがすぐに対応していた。今後とも良くなった点を子どもたちに知らせ、継続して指導をしていくことが大事だと思う。
- 明るい挨拶は、大人や上級生が範を示すことで、どんどん広がっていくので、継続して指導を続けたい。
- 集会等の機会を生かして指導することで、自分から挨拶をすることに、高まりが見られた。
- 目標に向かって頑張っている子どもたちの姿が、随所に見られた。
- あいさつ運動に積極的に参加するよう呼びかけてきた。6月になって意欲が出てきて参加人数が少しずつ増えてきている。
- 運営委員会、生活委員会、6年生のボランティアの取り組みの成果として、校門や廊下でのあいさつが以前よりよくなった。特に、男子の脱帽、立ち止まってのあいさつが徹底されてきた。
- 朝の挨拶運動と、その放送のおかげで、子どもたちが積極的に挨拶できるようになった。さらに、時と場に応じた挨拶を考えさせる場面をつくりたい。
- △低学年の方が、挨拶がよい。高学年も、はつらつとした挨拶をしていかななくてはならない。
- 明るく活発であるが場をわきまえずに行動してしまうところがあるのが反省点。「今はどういう場か」ということを伝えそれに合う行動ができるよう指導を続けることが必要と思う。

※成果と課題

生活部を中心に、全職員の共通理解のもと指導した成果が子どもたちの挨拶の向上に反映されている。良い習慣が身に付きつつあるので、今後も共通理解のもと、継続して指導していく。

強い子 平均 3.6

- 欠席児童が少ない1学期であった。自己肯定感を高めてあげることで心身ともに強くなっていくので、継続して指導を続けていきたい。
- 欠席が少なくなった。健康観察で、細かい様子を伝える子どもが減った。
- 欠席も少なく、健康的で衛生的な生活を送ることができた。自分の体を強く保とうとする気持ちが高まっている。
- 掃除の徹底が今一歩である。バケツを用意したり、ほうきで掃いたところを拭いたり基

本的な部分の指導から徹底していききたい。なかよし集会での中学生の発表は、新たな視点からの提案で、今後の効果に期待したい。

□粘り強く最後までやり抜く場面を子どもたちが選択する事なく、すべての面において取り組んでいきたい。

□心身ともに強い子に育てていきたい。

△我慢強く取り組む子どもが増えてきたが、まだまだ個人差が大きい。

●**粘り強さ**という点で、我慢すべき時にできない子どもがいる。

●きつくてもがんばろうとする**意欲**が足りないと感じた。

●粘り強く取り組んだり、責任をもってやり遂げたりすることに指導が必要な場面がある。

●**意欲**が弱い、すぐに友達に流され悪いことを見逃ごしたり、一緒にしてしまったり、本気で変えさせなければならない。

●些細なことで体の不調を訴えたり保健室に行こうとしたりする様子が見られた。「がんばってみよう」と子どもが思えるよう、様子を見ながら適宜声かけを行っていく。

●附小生の自覚をもって生活するよう声をかけてきたが、まだまだ自分にあまく、**ルール**を守れていない子どもも見られる。指導を続けたい。

※成果と課題

身体面での強さについては概ね良好であるが、心の強さという点でまだまだ課題が見られる。2学期は体育祭や音楽会、うさぎ狩りといった行事があるので、これらの行事を通して子どもたちにどんな力を着けさせたいのかという事を明確にもって指導に当たり、確実に成果を残せるようにしていきたい。

考える子 平均 3.5

○よく聴き、よく話す子どもたちの姿がたくさんみられた。さらに、3年生の発達段階を踏まえて学校全体の活動への主体的な参加を促したい。

○自分の考えをもち、表現しようとする子どもが多い。

○いろいろな事に興味や関心が高く意欲的であるので、そこを大切にしながら様々な指導をしていきたい。

○物事や話題にすぐに反応して何かを表現していこうとする姿勢が高まってきているので、この姿勢を今後も大切にしたい。

○課題の解決に向けて思考している子どもたちの姿が見られる。

△学習の中ではよく考えることができているが、生活の中で廊下歩行やバスマナーなどを考えて行動できることが必要である。

△授業中の課題に対して意欲的に取り組む姿、考えを黙々と書き込む姿はとてもよい。しかし、「対話」となるべく考えの交流をぜひさせたい。

●5分前行動の意識がまだ足りないような気がする。

●衝動的に反応している子どもが多いと感じる。

●バスマナーを守らないことで、周りにどれだけ迷惑をかけているのかを考えるといった、相手のことを考えることができるようにしていく必要がある。

●こんな遊びをしたら危ないかもしれない、こんな言葉を発したら友達を傷つけないか、など、先のことを考えた言動という面で課題を感じる。

●まだまだ時と場に応じた行動ができない児童がいるので、その都度考えさせていきたい。

●安易に楽な方や楽しい方を選びまわりを守れない子がいる。正しい行動ができるようきまりや約束が何のためにあるかを考えさせることを折に触れ行っていく。

●一列歩行については、点検があっている時は、きちんとできているが、誰も見ていないときや下校時にはできていない。一列歩行は周りの人の考えた行動ができるのかをみる

一つと言ってもいいだろう。そういう意味では、今の現状は今一歩である。なぜ、一列歩行をするのか、自分の行動に向き合わせるなどが必要であると考え。

※成果と課題

学習面においては、いかに思考させていくかを考えて日々授業に取り組まれている成果が表れているようである。しかし、生活面に生かされているかと考えるとまだまだといった状況である。日常生活の中で「どうして〇〇する必要があるのか」というように意味を考えさせることを大切にしていきたい。

2 学校行事 平均 3.9

- 附小タイムでは、楽しく演劇鑑賞ができた。鑑賞マナーもよかった。
- 芸術鑑賞会は、子どもたちの感性を育むとてもよい内容だった。
- 集会などの5分前行動ができつつある。今後も全職員で取り組むべき。
- 各行事に対して、目的や態度の指導が適切に行われていたので、子どもも真剣に取り組むことができていたと思う。
- 行事や集会への子どもの参加態度は年度当初に比べよくなっていると思う。2学期の早い時期に今よりよくなるよう指導・評価を積み重ねていく。
- 6年生になって行事に対する意識が高まってきていると思う。自分たちが中心となって進めていこうとする態度が見られてきた。
- 演劇鑑賞会の内容、テーマ共によかったと思う。
- 入学式準備など、6年生の主体的な活動に感心した。
- 一生懸命頑張っているようだが、2学期に向けて、目標達成に向けて邁進していくように支援したい。
- 行事を通して、健康面の自己管理が出来るように仕向けていきたい。
- 内容や状況に応じた振る舞いがさらにできるように、事前指導をしっかりとしていく。
- 行事と授業の関係を十分につくることができなかった。授業の1つとしての行事のあり方を再考したい。
- 入学式の練習などでは、私語がめだった。何のための行事なのかのように望まないといけないのか子どもたちに徹底する必要がある。
- 入学式や教育実習の顔合わせでの児童代表の言葉に問題を感じた。全校児童の手本となるような指導がきちんと入った模範をさせていく必要がある。
- 代表児童の挨拶、教官の話も含め、その場でしかできない内容と表現を、その場だから響くものを極めていくことが我々の使命でもある。そう考えたとき、式や集会での発表の質を互いに高め、より緊張感をもって臨むことが「本気で事に当たる」ことだと自戒を込め、確認したい。同時に時間についてももっとシビアに。長く話せば子どもたちが理解するという安易な考えではなく、与えられた時間でどれだけのことができるか、まさに「全てのことが授業に通じている」ということだと考え教官の共通理解としたい。

※成果と課題

各学級での指導や企画する側の努力により、行事への参加態度はよくなってきている。今後は行事一つ一つの質を向上させていけるような取り組みを行っていきたい。6年生の姿が附属小全体に相当な影響を及ぼすということを考えると、委員会活動や行事の中で、6年生をどれだけ輝かせられるかということを全職員で考えていく必要がある。

3 学習指導 平均 3.7

- 朝の読書を落ち着いてできるようになってきた。
- 少しずつ書く力が身に付いてきている。
- 基本的な学習習慣も身に付きつつある1年生。友達と考え合うことが楽しいと思えるようになってきている。
- 日々の授業をがんばっていかなくてはいけない。
- 低学年として、ノートの使い方・姿勢など、基本的なところを改めて指導していきたい。
- 日々の授業の積み重ねを大切にしていきたいと思う。学習態度について指導を要する子どもに対しては継続して指導を行っていく。
- 学力充実に向け、個の実態に合わせた学習指導をする必要がある。授業実践と合わせ、放課後の個別指導が必要だ。
- △研究授業を中心に、対話を通したよく分かる授業の実現を目指した挑戦には感謝している。ただ、対話の後の子どもたちの変容を見取る評価の面での取り組みが必要だと感じた。
- 落とし物の多さが気になる。筆箱の中に不必要なものが多すぎるのではないだろうか。
- 自分自身、子どもの話に十分耳を傾けられていないと思うことがある。
- 相手の考えを最後まで聞くことがまだできないので、話の聞き方を徹底していく。
- まだまだ自分の考えを言うことだけで留まっている児童が多い。聴くということを大切にした授業を重ねていきたい。
- 視力の低下がすすんでいるので、よい姿勢についての声かけも授業中などをお願いしたい。
- まだまだ話をしっかりと聴けない児童もいるので、基本的な学習訓練はしっかりと行わせていく。
- 自分自身としては聞き方やノートの取り方など基本的な指導をもっと細やかに行う必要があったと反省している。

※成果と課題

本校のテーマである「対話」ということを日々の授業実践の中で試行錯誤しながら取り組まれている事が研究授業等から伝わってきた。学級での約束事などもきちんとできつつあるようなので2学期は我々が求める「対話」の姿をもっとはっきりと見せられるようにしていきたい。

4 生徒指導 平均 3.4

【登下校、バスマナーについて】

- バスマナーに関しては月に一度スモコミの班長から様子を聞き、その都度指導できている。さらによくなるよう継続して指導していきたい。
- スモコミ班のバスマナーが改善されてきている。それに伴い、月ごとの反省や子どもたちの話からマナーを守らない子どもが目立つようになり、指導しやすくなっている。
- バスマナー等、マイナス面が具体的に出てきているのは、生活指導部を中心とした積極的な働きかけによるものだと思う。丁寧に振り返っていくことを大切にしたい。
- バスマナーについては、2学期も継続して指導をしていく。
- バスマナー教室の工夫など、積極的な生徒指導にはありがたく思う。生き生きアンケートなども含め、これから担任としての活動が重要になってくると考えている。
- バスマナーについて、子どもから話を聞き、指導する時間を数回設けた。
- △バスマナー教室はとても効果があったと思う。しかし、意識してほしい子どもほど入ら

ない現実もあり、素早い対応と指導を引き続き行いたい。

- 下校に関しては、保護者の方々からの報告で厳しい実態が詳しく分かった。スモコミ担当や生活部を中心とした指導はもちろんだが、子ども同士で律し合える関係もつくる必要がある。
- バスマナー等、問題のある児童に関しては、他の子どもや保護者からの報告を保護者にも確実に知らせるようにし、家庭でも話し合ってもらいたい。
- バスマナー教室に向けての聞き取りで、児童の許されざる実態が浮き彫りになった。日々のチェックカードは高学年のリーダー性を信じての取り組みであるので、少しでもマナーが向上するように月末の反省会の場でしっかりと声かけをしていきたい。
- バスマナーについては、苦情を含め課題が残る。登下校マナー教室によって、スモコミごとに問題について共通理解を促したり、ルールやめあてを決めたりしたように、今後も継続して子どもたちの意識を高め行動化していくことが大切だと考える。
- 登下校での苦情などを聞くと、注意後の態度に憤慨されていることが多いと感じた。きまりやマナーを守ることも大切だが、非があるときに素直に「すみません」「ごめんなさい」が言えるようになることも目指していく必要がある。
- バスの運転手の聞き取り状況からも、子どもたちのマナーの悪さはよっぽどである事が分かる。名札を着けて登下校させ、よほどの場合は運転手に名前を報告してもらうようにしてもいいのではないだろうか。そうする事で子どもたちも見られているという意識が高まるように思う。

【学校生活について】

- 生き生きアンケートは、子どもたちの今を知る上でも、今後も定期的に行っていきたい。
- 児童間のトラブルに対して、迅速に対処している教官の姿があった。
- △代表委員会では挨拶の仕方を低中高ごとに考えさせ、全校に広めた意味が理解できなかった。附属小学校の挨拶は1年から6年まで1つでいいのではないのでしょうか。
- 名札、上履き、シャツ出し、チャイムを守る事など指導を続けていくことが大事だと思う。
- 名札の着用や男子のシャツ、靴のかかとぶみなど全職員が共通理解し継続的に指導していく必要がある。
- 高学年男子の言葉遣いが気になる。自分が注意・指導を受けるようなことをしているという自覚があってもなお改善されず心配である。
- チャイムを守る、廊下歩行、掃除など小さなことがなかなかできていない。生活委員会の呼びかけ等を生かし、よくできている子どもを褒めるなどして意識を高めていく必要がある。
- 廊下を走ったり、追いかけっこをしたりする子どもがいる。その場で指導するが、なかなか減らない。
- ルールやマナーを徹底的に守らせていきたい。が、しかし…という件がいくつかあった。保護者や学年部での連携を充実させる必要がある。
- 守るべきルールについて理解しているにもかかわらず、行動が伴っていない子どももいる。道徳や特活を通して心に響かせていかなければならない。
- 本校の特徴なのか、落とし物が多く、その上記名がしていないものが多い。整理整頓も含め、2学期の課題として取り組みたい。

※成果と課題

昨年までのバスマナー講座の形を大きく変更し、スモコミを機能させながら、子どもたちが自治的にマナーを守れるような取り組みが行われた。現在成果が表れ始めているが、やはり鍵を握るのは高学年の子どもたちである。1学期は高学年としての自覚のな

い姿が見られる場面があったので、2学期以降の変容を全職員で目指す必要がある。

5 環境設営 平均 3.6

- 広報委員会の新しい新聞は、一歩進んだ取り組みであったと思う。
- 学年によって廊下の掲示に工夫されたものが見られるようになった。これが継続していく必要がある。
- 雑音掃除がよくなってきた。習慣化できるように引き続き取り組んでいきたい。
- 児童作品のみならず、クイズ形式の掲示など興味をひく掲示に立ち止まって見ている子どもたちの姿が見られていて良い。
- 子どもが立ち止まって見ていくような掲示がいろいろ見られた。
- 特別に斬新な掲示でなくてもよいので、日々の取り組みの途中過程も掲示できるように、個別ファイルのようにして掲示していった。
- 壁面が金属のため画紙が刺さらないといったデメリットはあるが、マグネットを貼ることで掲示場所が容易に変更できるというメリットもある。メリットを生かし、時節ごとに工夫ある掲示を続けたい。
- 学びのあとが感じられるよう掲示の充実を図っていきたい。
- 掃除を徹底して行うようにした。
- 子どもたちが操作できたり、立ち止まって考えたり出来る掲示の工夫をしていきたい。
- △ワークシートは定期的に張り替えることができたが、園工の作品を掲示することができなかったのも、方法を考えていきたい。
- △廊下の掲示の貼り替え、工夫までは至らなかった。
- 昇降口や靴箱での靴や傘の散乱が目立った。
- 掃除における床の拭き上げができていないと思う。掃除指導の徹底をもっと図るべきだ。
- ~~廊下の片付け状況~~の片付け状況がよくない。授業において使用したあとは、担任が最後は確認してほしい。

※成果と課題

昨年度の反省をもとに、各学年変化のある掲示を心がけられており、子どもたちが立ち止まって見ている姿が多く見られた。掃除道具や備品の整理整頓など、我々職員がもっと細かいところまで目を向けていく必要がある。

6 道徳教育、人権教育環境教育、安全教育健康教育、性教育等

- いじめアンケートなどで子どもたちの様子をしっかりと見つめる機会があつてよかった。悪いことは悪いと胸を張って言える集団を育てていきたい。
- アンケートを見ると、クラスの中で厳しい立場にいる子どもの姿が詳しく見えてきた。時や場面に応じてその都度指導するのはもちろんであるが、教育活動全ての場面で人権教育の視点で指導する重要性を再認識した。
- 事件や事故に巻き込まれないためにも、夏休み前を機会に、安全面の約束の確認をしっかりと行いたい。
- 子どもたち同士の会話を聞くと、「思いやり」がかけていることが多いと感じる。そもそも「思いやり」という概念がないと思われる子どももいるのではないかと考える。思いやりがあふれる環境づくりに努めたい。(具体的に書けずすみません)
- 人にぶつかっても「ごめん」を言わず、理由をきくと「わざとじゃない」という。こまめに指導している。
- 友達に対する乱暴な言動を目にする。注意をすると言い訳や責任転嫁をすることがよく

ある。自分の言動を振り返らせ、相手意識をもった言動ができるように繰り返し指導をしている。

- 乱暴な言葉遣いが気になることがある。その都度指導を続けていくしかないのかなと思います。
- 不燃物を出す場合の出し方を考えていきましょう。安全か、整理されておかれているか、出す人たちが気をつけなければ、「出したらおしまい」という気持ちでは困ります。

7 各部に対して

- 各部で昨年度の反省をもとに新たな工夫を凝らした取り組みが行われているのはよいことである。
- ドロップボックスによる文書等の配信システムを作っていただき、大変助かりました。
- せっかく Dropbox のサーバを開設したので、各部の提出物は、そこに保存して、締め切りが過ぎたら、担当が元々のサーバに移動するようにしたらどうだろうか。アクセスのトラブルもなくなるし、締め切り後にはなくなっているので、提出期限を厳守する意識も高まると思う。
- 弁当の時間の曲の選択が気になる。落ち着いて食べられない。クラシックを流して落ち着いて食べる日があってもいいのではないか。
- 弁当の時間の放送で、ジャンケンがあるのが少し気になります。
- 昼食時の放送が気になる。楽しい放送になるように工夫されているのは分かるが、現実問題として騒がしく、落ち着いた食事ができないところがある。曲の選択や内容の精選をお願いしたい。

8 その他

- 先日の中学生の発表後、子どもたちの掃除の仕方が変わったと思う。とてもすばらしい模範を見たと思う。
- 毎日の授業実践の中で、様々な問題を解決していきましょう。
- 体育館に入るとき、体育では上靴を脱がないのに、集会で脱ぐ必要があるのか疑問。脱ぐよりも、マットでしっかり靴底をふく指導をした方がいい。
- なかよし集会の入場時に運営委員会の子どもたちが挨拶をしているが、それに対して他の子どもたちに挨拶を返させるべきかどうか迷うので、一度共通理解を図る必要がある。
- 学年初めなので仕方がないことかもしれないが、4月の提出物関係のプリントが非常に多い。保健関係のように封筒にまとめたり、数を減らしたりする工夫はできないものだろうか。
- 朝読書、下校時刻の徹底が学校全体できていない。朝読書で落ち着いた一日をスタートすること、一斉下校の意味を考え学校全体で徹底していくべきであると思う。
- (仕方がないことだと思いますが) 工事の音や振動にびっくりすることが何度かありました。2学期も同様に工事が行われるのであれば防音など少しでも改善できるよう検討が必要だと思います。

(資料Z-3-1-3) 学校評価のまとめ (ふたば)

ふ た ば 平成26年7月14日

学校評価のまとめ

平成25年度末に実施した学校評価の結果をお知らせいたします。
この結果を生かして、さらに附属小教育活動の質を保護者の方々とともに高めたいと考えております。ご協力ありがとうございました。

《成果》

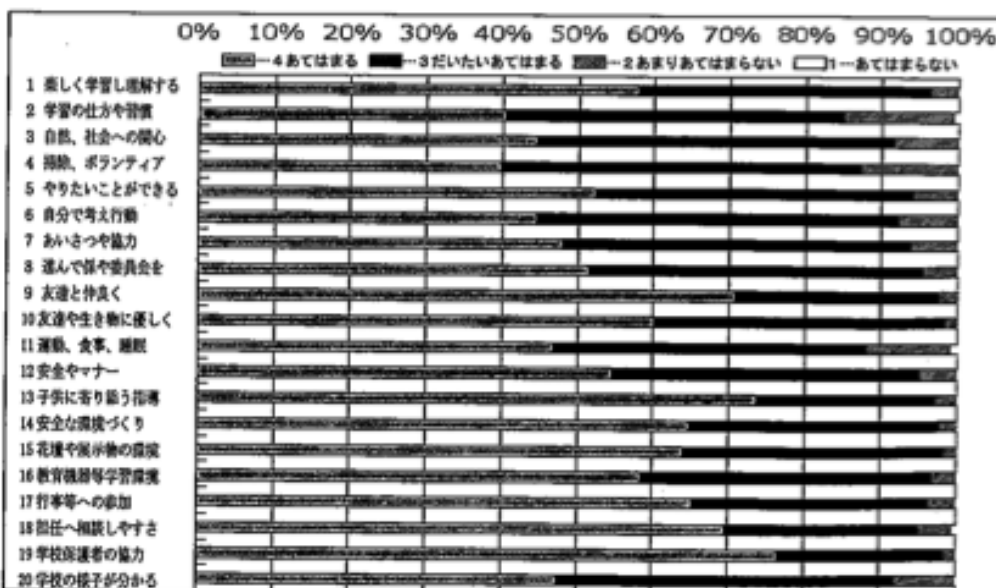
- 20項目中17項目で90%以上が肯定的な評価であり、そのうち12項目が95%以上の高い評価であった。
- 昨年度の評価と比較すると、ほとんどの項目で改善がみられた。特に、「項目3：自然や社会への興味関心」「項目20：学級や学校の様子がよく分かる」のポイントが高くなっている。

《課題と対策》

- 他項目と比べやや低い評価であったのが、「項目2：学習の仕方や習慣が身に付いている」「項目4：掃除、ボランティア等に進んで取り組んでいる」「項目11：健康な体のために運動や食事、睡眠等に気を付けている」の3項目でした。
⇒ 本年度は朝のボランティア活動や学校保健委員会、教育講演会等の内容充実とともに、健康教育と関連づけた食育の推進を図りたいと思います。また、項目2の評価については、保護者の期待の高さによると思いますが、学年の発達段階や個に応じた指導を強化したいと思います。
- 「項目6：自分でできることは自分で考え行動する」と「項目14：安全な環境づくりができていいる」、「項目15：花壇や掲示等、潤いのある環境づくりができていいる」の3項目が昨年度に比べ若干低下していました。
⇒ 項目6については、自分がやるべき事であっても、面倒なことやきついことを避ける傾向があるのは事実です。道徳教育の充実とともに、「任せて褒める指導」を意識した子ども主体の活動をさらに意識していきたいと思います。また、教育環境については、安心安全を第一に考え、大学や教育後援会への要望を継続しながら、PTA環境委員会や保護者ボランティアと連携して潤いのある環境づくりに努めていきたいと思います。

《自由記述より》

- 学習内容の定着に対する不安感：学年・学校全体を視野に入れて、基礎基本の定着を目的とした個別指導の機会を、放課後や長期休業中に設定する計画です。



(出典：広報ふたば)

観点3-2 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針が適切に公表・周知されているか。

(観点到に係る状況)

入学受入方針については、本校ホームページと紙媒体によって募集要項を公表している。また、教育課程の編成については、本校の使命や教育目標、特色ある教育活動について、本校ホームページにて公表している。(再掲資料E-2-1-1)(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

可能な限り、一般者に対して入学受入方針及び教育課程の編成の一部を公表しているため。

(再掲資料E-2-1-1) 入学者募集要項

平成26年度 入学志願者募集要項

熊本大学教育学部附属小学校
(所在地) 熊本市中央区京町本丁5番12号
(電話) 096-356-2492 (代表)

本校は、義務教育を行う国立大学法人熊本大学教育学部附属の小学校です。そのため、教育学部学生の教育実習を行います。また、教育学部および附属幼稚園・附属中学校・附属特別支援学校、その他の研究機関と連携して教育改善のための研究を行う学校です。したがって、本校独自の教育計画による教育を行うことがあります。

入学志願者の保護者は、本校の特質を十分ご理解のうえ、志願してください。

1 募集定員

105名程度(男子53名 女子53名程度) ※ 附属幼稚園からの連絡入学者を含みます。

2 志願資格

次の条件をすべて満たす必要があります。

- (1) 平成19年4月2日～平成20年4月1日の間に生まれた者
- (2) 熊本市に保護者と同居し、そこを生活の本拠地とする者
※ 本校入学のための寄留は認めません。
- (3) 自宅(生活の本拠地)から徒歩または公共交通機関を利用して、50分以内で通学できる者
※ 資格の変更があれば、転校をお願いすることがあります。
※ 県外等居住者の出願の場合、保護者の転勤見込み証明書等を出願時に添付してください。

3 入学者募集説明会

- (1) 日時 平成25年11月25日(月)
受付 9:30～10:00 説明会 10:00～12:00
- (2) 場所 附属中学校体育館(※附属小体育館改修工事のため)
- (3) 留意事項
 - ① 時間厳守をお願いします。10時以降の入場はお断りします。
 - ② 説明会への出席は、志願者の保護者又は代理の方1名のみ(特別な理由がある場合は事前にご相談ください)とし、入学選考審査を受けるお子様や乳幼児の同伴は禁止します。
 - ③ 上履きは各自ご用意ください。

入学願書は、この説明会においてのみ交付します。

その他の請求には一切応じられませんので、ご注意ください。

4 入学願書の受付

- (1) 受付期間および時間
 - ① 期間 平成25年12月4日(水)～12月6日(金)
 - ② 時間 9:00～16:00(12:00～13:00を除く)
※ ただし、12月6日(金)は12:00までとする。

(2) 提出物

- ① 入学願書 ② 通学経路届 ③ 住民票(熊本市在住で保護者と志願者が同居と分かるもの)
- ④ 検定料 3,300円(検定料納入後の返金はできません)

- (3) 提出先 附属小学校事務室 ※ 願書提出後、受付票、領収証をお渡します。

5 入学者選考審査

- (1) 期日 平成26年1月5日(日)
- (2) 場所 熊本大学教育学部附属小学校 (受付場所) 附属中学校体育館
- (3) 内容 本校の特質を考慮し、考える力、判断する力、運動する力、話を聞く力、集団で行動するときの態度等に関する内容

- (4) 方法 選考考査により、第1次合格者を決定します。その後、抽選によって最終合格者を決定します。(ただし、附属幼稚園からの第1次合格者は、抽選はありません。)

(5) 日程

受付	8:40～9:10 (時間厳守)
日程説明	9:15～
選考考査	9:45～
昼食	12:00～
選考考査	13:00～
終了予定	15:00

(6) 留意事項

- ① 必ず保護者同伴で受検してください。保護者面接も行います。
- ② 受付にて、受付票を提示し、受検票を受け取ってください。
- ③ 原則として、受付終了時刻の9時10分までに入場されない場合、志願を辞退されたものとします。
- ④ 昼食、上履き(お子さんの上靴は無記名のもの)をご用意ください。

6 第1次合格者発表及び抽選

- (1) 期日 平成26年1月7日(火)

(2) 日程及び場所

第1次合格者発表 (本校玄関前)	9:30
抽選受付 (附属中学校体育館)	9:30～10:00 (時間厳守)
抽選 (附属中学校体育館)	10:10～
最終合格者発表 (本校玄関前)	13:00

※ 電話による可否の問い合わせはお断りいたします。

※ 抽選会場には、保護者1名のみ入場できます。(双子等の場合はこの限りではありません。)

7 入学手続き

入学手続きでは、以下のとおり確約書を提出していただきます。

- (1) 期日 平成26年1月7日(火)
- (2) 場所 熊本大学教育学部附属小学校事務室及び抽選会場
- (3) 日程

① 附属幼稚園からの合格者(事務室)	9:30～10:30
② ①以外の最終合格者(抽選会場)	抽選終了後

8 入学許可証交付及び新1年生保護者説明会

- (1) 期日 平成26年2月21日(金)
- (2) 場所 熊本大学教育学部附属小学校教生講義室(3F) (受付場所) 低学年昇降口
- (3) 日程

受付	13:30～14:00 (時間厳守)
入学許可証交付	14:10～14:30
学校側説明、事務手続き等	14:30～16:00

※ 「7 入学手続き」と「8 入学許可証交付」をもって入学許可とします。本会に欠席された場合は、入学の意志がないものとします。(新1年生保護者会には、保護者1名のみご出席ください。)

9 その他

- (1) 提出書類に事実と異なる記載がある場合は、受検資格および合格を取り消します。
- (2) 選考考査後、個人情報に関する書類等は、当方で責任をもって処分いたします。
- (3) 選考考査に関するすべての場合において、校内への車の乗り入れはできません。他の交通機関をご利用ください。また、学校周辺の路上や施設への無断駐車は絶対にしないでください。

(出典：入学者募集要項)

観点3-3 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第172条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育活動等については、本校ホームページ（資料Z-3-3-1）及び刊行物（再掲資料E-2-5-2）にて情報提供を行っている。また、保護者に対しては前述のものに加え、年間5回発行されるPTA広報誌（資料Z-3-3-2）にて情報発信をしている。（資料3-3-A）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

本校教育活動を広く一般の方々に情報発信するために、ホームページを活用している。また、研究面においては、ホームページに加え、年間3回発行する附属小研究だよりを配付することにより、県内小学校全職員や教育行政機関（熊本県・熊本市）、他附属等に詳しく情報発信している。

（資料Z-3-3-1）附属小学校ホームページ



（出典：附属小学校ホームページ）

(再掲資料E-2-5-2) 附属小研究だより

VOL. 39

平成 26年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより



～研究テーマ～

豊かな「対話」で広がる創造的な学び(3年次)

平成26年度がスタートしました。熊本大学教育学部附属小学校における「豊かな『対話』で広がる創造的な学び」の追完も3年目を迎えました。

現在、学習指導要領では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが謳われています。つまり、基礎的・基本的な内容である知識・技能を「活用」するために、言語活動を通して「思考力、判断力、表現力」等を育てることが指摘されているのです。この背景には、PISA調査や全国学力調査などの結果、日本の子どもたちは論理的に思考し、表現する力が不十分であるということがあげられます。

現在、小・中学校では、こうした言語活動をどのように組織し、どのように思考力・表現力を高めていくかということが大きな課題となっています。そこで、私たちは、全教科を貫く、あるいは小・中学校の学びを貫く一つの教育目標として、子どもたちが根拠(客観的な事実・データ)をもとに、自分なりに理由づけ(事実・データの解釈・推論)をして自分の意見を主張し、話し合い、考え合うという言語活動の充実を図ることが、思考力・判断力・表現力の育成、さらには応用可能な知識・技能の形成につながると考えています。こうした論理的思考力・表現力を子どもたちが自在に活用しながら、他者との対話による協同的学びを通して、新たな知を創造していくという学びの実現です。

本校は、平成21年度から23年度までの3年間、文部科学省委嘱研究校として「論理科カリキュラム開発」で得た知見を各教科の学びの言語活動の充実を生かすべく継続研究を行っています。そこで追完してきた「創造的な学び」のあり様は公立学校にも導入され、学びの輪が全国に広がっています。全国の先生方と共に、これからの社会に生きる子どもたちに必要な学びのあり様をさらに追完していきたいと思っています。

みなさまの恐ろしいご意見をいただきながら、現代の教育課題に応え、多くの学校に寄与できるような実践研究に取り組んでいきたいと思っています。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 河野 順子

(出典：附属小研究だより)

(資料Z-3-3-2) 広報ふたば

ふ た ば

平成 26 年 3 月 12 日

研究発表会

「研究主題」
豊かな「対話」で広がる
創造的な学び(二年度)

研究発表会を終えて

研究部長 井上 伸円



二月十四日(金)に、研究発表会を開催いたしました。約千名の参加者を迎え、盛会のうちを終えることができました。保護者の皆様には当日はもちろんのこと、会を迎えるにあたり様々なお手伝いやお心配りをいただきました。心よりお礼申し上げます。昨年度より、全ての教科等の学習で子どもたちに論理的に思考し表現する力を育成していくことを目指して実践研究を積み重ねてきました。「どこから、そう考えたの?」

「なぜ、そう考えるの?」など、友だち同士で真剣に考え抜く姿。「なるほど!」「わかった!」など、友だちとの対話を通して考えを深めていく姿、夢中になって学ぶことを楽しんでいる姿が、どの教室にもあふれていました。参加者のアンケートには「低学年の子どもたちも、友だちの発言を受けて、さらに考えを述べていた姿が、ごく自然にできており驚きました。自分の考えを堂々と述べていて、どの考えも堂々と述べていると感じました。」との子どもも夢中になって活動を楽しんでいる姿が見られました。聴き合う教室の雰囲気や一人一人の発言のレベルの高さに、日々の積み上げの成果が伝わりました。など、子どもたちのことが多く書かれていました。また、保護者の方々に対する感謝の言葉も多く聞くことができました。いくつかを紹介いたします。「保護者の方々の協力が素晴らしいです。教室への案内もきめ細やかで、おもてなしの心を感じました。安心して参加することができました」



谷口学長、河野校長と受賞者たち

「受賞作品」
(入賞)
りっぱだなあ
附幼のくすの木
あおぎ見る
五年生 養田 怜奈
(特別賞)
りゅうがくせい
おしえて
いろんなくすのこと
四年生 溝部 朔矢
涼やかに
歩く少女は 附属の子
六年生 勝田 紗
もっこすと
呼ばれるほどの
探求心
西村 正之先生

盛大観望多
読み札コンクール
表彰式

(出典：広報ふたば)

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。〈施設・設備〉

観点4-1 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。
また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

教育実習を使命の一つとする本校においては、施設・設備の面で、更衣室や研究施設がないなど、不十分な面が見られる。その他については、耐震化・バリアフリー化・安全面の視点に立った施設・設備の整備が進んでいる。(資料Z-4-1-1) (中期計画番号64)

(水準)

期待される水準を下回る。

(判断理由)

施設設備面の整備は進んでいるが、予算の関係により十分な状況にはないため。

(資料Z-4-1-1) : ①防犯カメラ、②守衛室、③体育館バリアフリー



①防犯カメラ



②守衛室



③体育館バリアフリー

観点4-2 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校では、大学と連動したネットワークが整備され、個人にIDやパスワード等が割り当てられている。また、セキュリティや情報漏えいの個人意識改革研修も実施している。(資料Z-4-2-1)

ICTについては、児童用パソコン20台が視聴覚室に整備されるとともに、学習用iPadも40台整備し、教育機器を活用した授業実践も実施している。また、本校の研究内容をDVDにして、授業の様子を動画で入れ込むなど、より分かりやすく発信できる研究紀要DVDも作成している。さらに、本

校ホームページやブログにて、該当年度の本校全体の研究内容や各教科等・個人の研究実践をリアルタイムで発信している。(資料Z-4-2-2~Z-4-2-3)

ICT環境の整備と有効活用の評価については、職員に対しては毎学期の学期反省として実施し、職員会議を通して検討している。また、児童や保護者の評価については、年度末の学校評価項目の中に位置づけ、予算面と関連させて環境面と指導面の充実に向けた取組に反映させている。

(中期計画番号65)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

授業等におけるICT活用に対する職員の意識とスキルは高く、授業や教育活動の質的向上に有効活用がされている。ただ、予算面に課題があり、必ずしも環境面が充実しているとは言えないため、大学への要求を続けているところである。


(資料Z-4-2-1) パソコン関係資料

平成26年4月4日(木) 校務部

PC関係資料

本資料では、ネットワーク接続の仕方、各種IDやパスワードについてお知らせします。設定等は基本的に個人でお願いします。不明な点は校務部にお尋ねください。

- 1 Ethernet (イーサネット) によるネットワーク設定 (Windows7 /Mac)
→ LAN ケーブルにつないで行います。インターネット接続も、これが一番安定し、速度も速いです。NAS サーバーにつながっています。
- 2 WiFi (無線 LAN) による設定方法及びパスワード
→ 接続する際に、パスワードが必要です。
→ 2段階でログインします。まず、大学のWiFi パスワード、次に個人の ID とパスワードを入れないと接続できません。
(ID は職員番号です。パスワードと一緒に大学から各個人に封書で配付されます。)
- 3 Mac 用/Windows 用ウイルス対策ソフト (F-Secure Ver11.5) インストール方法
(※NAS サーバーよりダウンロードしてください)
- 4 サーバーへの接続方法
- 5 本校ホームページへのブログの書き込み及び PDF アップロード方法
ログイン ID とパスワードについて
- ✓ 6 Google カレンダーによる学校行事のお知らせ



(資料Z-4-2-2) 視聴覚機器一覧及び視聴覚室利用予定

視聴覚機器の管理及び視聴覚室の使用について

校務部

1 視聴覚機器の管理について

(1) 保管場所

放送室	各教材室							管理棟3階倉庫
	機器名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
ビデオカメラ								ビデオデッキ
マイク	HDビデオカメラ	1	1	1	1	1	1	DVDプレーヤー
三脚	三脚	1	1	1	1	1	1	電源ドラム
デジタルカメラ	パソコン用スピーカ	1	1	1	1	1	0	OHP
イヤホン	プロジェクター	1	1	1	1	1	1	
ケーブル類	実物投影機	1	1	1	1	1	1	
プロジェクター	スクリーン	2	2	2	2	3	3	
PC用スピーカー	HDMIケーブル	1	1	1	1	1	1	
	MacTV用コネクタ	1	1	1	1	1	1	

★iPad はカートに入れて教官室に保管する。

(2) 使用方法

- ① 使用する前日の午前中までに、必ず担当（豊田）に使用することを伝え、使用申し込み（NAS サーバー内ファイル）に、使用日、使用者、使用品、返却予定日を上書きしていくようにする。
- ② 返却する際は、データの消去および充電を必ず行う。
- ③ 故障や破損は、速やかに担当に伝える。

2 視聴覚室の使用について

(1) 使用申込み

教官室黒板の「コンピュータ室使用予約表」に記入する。iPad は教官室後ろ黒板に使用日、使用学級を書き入れ予約し、使用後は使用ファイルに記入する。

(2) 注意事項

- ・ コンピュータのデスクトップは月に1回は整理するため、データは書類フォルダ内の各学級のフォルダ内に保存する。
- ・ 不具合があった場合は、すぐに担当に知らせる。
- ・ コンピュータ室を使用しない時間は、必ず施錠する。
- ・ 昼休みは開放しない。但し、学習等で使用する場合は、担任（もしくは教科）がつくようにすること。

(出典：視聴覚機器一覧及び視聴覚室利用予定)

(資料Z-4-2-3) 研究紀要DVD



(出典：研究紀要DVD)

観点4-3 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校の図書館は、読書を中心とした読書館と調べ学習を中心とした情報館に分かれており、それぞれに対応した書籍が分野ごとに整備されている。整備状況は、本校規模に適した状況にあり、すべてコンピュータにより、利用状況も含めて一括管理がされている。(資料Z-4-3-1～Z-4-3-2)

利用者のニーズへの対応については、図書購入アンケートを実施し、可能な限り希望を反映した購入計画を作成して実行している。また、図書館便りや広報誌等により、新書や良書の紹介をするなど、情報発信も行っている。(資料Z-4-3-3～Z-4-3-4) (中期計画番号64)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

図書司書を中心として、図書館の環境整備及び有効活用が推進されているため。

(資料Z-4-3-1) 図書館月例報告

図書館より

6月(貸出日数:21日)の読書館の本の貸出数と利用人数は以下の通りでした。

年	組	5月の貸出冊数 (利用人数)	6月の貸出冊数 (利用人数)
1	1	265(36)	449(36)
	2	267(36)	460(35)
	3	270(36)	255(34)
2	1	523(33)	463(33)
	2	378(34)	468(36)
	3	277(35)	308(35)
3	1	261(33)	178(28)
	2	310(35)	139(28)
	3	191(34)	247(35)
4	1	224(38)	130(35)
	2	182(38)	476(38)
	3	374(39)	243(34)
5	1	557(38)	476(35)
	2	221(33)	198(26)
	3	201(25)	227(29)
6	1	21(7)	93(29)
	2	152(35)	112(32)
	3	68(31)	88(28)
合計		4742(596)	5010(586)

・個人の借りた冊数および返却の遅れている本は、別紙の通りです。

新しい本です。

どこかいきのバス

小さなりゅうとふしぎな木

こぐまのクーク物語 森のレストラン 角川つばき文庫

ともだちはサティール!

時をつなぐおもちゃの犬

魔女のお店 魔女の本棚

アナと雪の女王 ディズニーアニメ小説版

海賊の銀貨 12分の1の冒険3

マジックツリーハウス36 奇跡のマジック・ショー!

プロ野球のすごい話 ポプラポケット文庫

ひまわり

あさがお

日本語を味わう名詩入門

2 金子みすゞ

17 新川和江

18 工藤直子

19 谷川俊太郎

20 まどみちお

おまかせ自由研究&調べ学習

(出典: 図書館月例報告)

(資料Z-4-3-2) 図書館利用計画

図書館の利用について

平成26年4月8日
附属小学校図書館

1 貸し出しについて

- ①期間
4月第3週より3月第2週まで ○4月17日(木)より貸し出し開始予定
- ②貸し出し日
月曜～金曜の週5日制
- ③貸し出し期間
貸し出し日を含めて1週間以内
- ④貸し出し時間
9:40～16:20 (1時間目の休み時間から下校時間の10分前まで)
- ⑤冊数
読書館の本のみ、一人1冊 ※ただし金曜日や連休前日は一人2冊(2冊目)も可
- ⑥その他
学校行事の日は休館
長期休業中の貸し出しについては、別途計画する。

2 読書館・情報館の利用について

- ①利用時間
8:30～16:20
- ②クラス単位での利用
利用日時について、司書まで連絡する。
読書館、情報館に各1クラスまで予約を受けます。
※担任で利用状況の確認と指導をする。
グループ、少人数の場合は、司書に連絡をとり、予約状況等を確認して利用する。
- ③情報館の本について
原則として館内で使用する。
どうしても教室、特別教室などで使う場合は、担任の許可を受けカウンターの記録簿に記入して持ち出し、使用后速やかに返却する。
- ④利用の仕方についての指導
図書館の利用の仕方については、年度当初(貸し出し開始まで)に必ず指導し、その後も繰り返し利用状況の確認と指導の徹底を図る。

3 その他

- ①本を借りるときは、図書貸し出しカードを持ってくること。
- ②決められた日までに、必ず返すこと。
延長したいときは一度、本とカードを持ってきて手続きをする。
- ③図書貸し出しカードを失くした場合は、再発行する。
※「再発行願」(別紙様式、保護者・担任押印)に再発行料50円を添えて津留まで提出する。
(再発行願の用紙は図書館の津留のところにもらいにくる。)
- ④本は大切に扱うこと。
折り目をつけたたり、汚したり、落書きをしたり、濡らしたりしない。
バス停やバス・電車の中などに忘れないようにする。
※本を失くしてどうしても見つからない場合等は、同じ本を買って返してもらおう。
- ⑤館内では静かにすること。
- ⑥本を無断で持ち出さないこと。

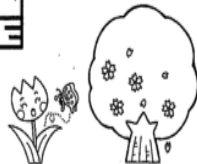
(出典：図書館利用計画)

(資料Z-4-3-3) 図書館だより



熊本大学教育学部
附属小学校図書館
平成25年4月

ご進級おめでとうございます。



校庭の木々の芽吹きが美しい中、新学期が始まりました。新しい学校生活にはもう慣れましたか。今年はどうな本を読もうかなといろいろ計画していると思います。新しい本も増えました。今年もいろいろな本を読んで、心豊かに楽しく毎日をご過ごして欲しいと思います。

附属小の図書館も4月18日(木)から貸し出しを始めます。みなさんがたくさん図書館に来てくれるのを楽しみに待っています。



附属小図書館の案内

附属小の図書館は、中棟の2階にあり読書館と情報館の2つのスペースに分かれています。

どくしょかん 読書館・・・絵本や物語、伝記、民話、ノンフィクションなど読み物の本があります。

じょうほうかん 情報館・・・事典や図鑑のほか、調べ学習の時に使う本があります。

いつ、だれが調べに来ても見たい本があるように、情報館の本は貸し出しはしていません。館内で見てください。

本は分類ごとに整理してあるので、どんな本がどの分類に入っているかおぼえと、見たい本をじょうずにさがすことができます。本の背表紙にはあってあるラベルの番号や分類をおぼえとべんりです。ラベルの番号は0から9まであります。読書館の本は、ほとんどが9の分類のグループです。くわしくは、図書館で見てください。



◇◇ 図書館のきまりを守って本を借りましょう ◇◇

貸し出し時間 午前9時40分～午後4時20分
(1時間目の休み時間から下校時刻の10分前まで)

※下校時刻が早い日は それにともなって 早く終わります。

本を借りるとき・返すとき

- ・貸し出しする本は、読書館の本だけです。
- ・1人1冊(金曜日や連休の前の日は2冊まで)
- ・図書貸出カードと本をカウンターに出して、手続きをしてもらいます。
- ・貸し出し期間は1週間以内です。(延長したい時は一度本とカードを持ってきて手続きをしてください。あと1週間まで借りることができます。)
- ・返すときは、カウンターの「へんきやくばこ」に入れます。



図書館の本は多くの人々が長く読む本です。本は大切に扱っていきましょう。



借りた本は、決められた日までにおくれずに返しましょう。

本をよごしたり、ぬらしたりしないようにしましょう。

本をおきわすれたりなくしたりしないようにしましょう。



4月23日は「子ども読書の日」です。

たくさん読もう。楽しく読もう。

(出典：図書館だより)

(資料Z-4-3-4) 広報ふたば

平成24年7月10日

ふ た ば

図書館だより

読書で楽しい夏休み
図書司書 津留 雅子

読書館には、図書の教科書めたりして、もっと一冊をたつに掲載されている本を揃えています。各学年毎にいろいろなジャンルの本がまとめて置かれています。自分が好きの本を見つけたら、これまでに読書の幅をより広げたりするきっかけとなっています。新しい本の多くは書架に戻りませんが、お話をすじだけでなく、人物像を考えたり、周りの様子を感じながら読み進めたい本をじっくり考えて、落も、お話をすじだけでなく、人物像を考えたり、周りの様子を感じながら読み進めたい本をじっくり考えて、落ち着いて進んでいる姿も見られます。

新しい本の購入が楽しみです。次々にたくさん本を読みたいという強い気持ちが伝わってきます。ただ、一つの物語りません。学校の図書館も例年通り開館日を設定します。たくさんの子を五感で感じながら読み進めたい本をじっくり考えて、落ち着いて進んでいる姿も見られます。

夏休みの学校行事

7月 17日(火)20日(金) 六年修学旅行
林間学校(長崎)

18日(水)20日(金) 五年臨海学校(青北)

24日(火)家庭訪問開始

8月 5日(日)九附連親睦球技大会(小倉)

19日(日)PTA奉仕作業

9月 3日(月)始業式

編集後記

六月五日、能のおはやしが附属小学校体育館に響き渡りました。表紙は、能の舞と、児童が能楽師塩津様と一緒に、おもて体験をしている場面です。七百年間受け継いで伝えられてきた能。取材を通して日本の伝統文化を学び、守っていく大切さを子どもたちと共に学びました。発行に際し、ご寄稿ご協力をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

第三五八号
発行担当
三年広報委員

表紙題字・永目 真爾
撮影・広報委員

4. 質の向上度の分析及び判断

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること
質を維持している。

(記述及び理由)

管理運営のための人員について、非常勤講師3名(音楽科・家庭科・外国語活動)が継続して配置されている。また、実習助手として、3名が3ヶ月間(9月～11月)配置され、教育活動の補助をしており、教育活動の充実に寄与している。

危機管理については、職員の自己評価を生かし、面談等を通して法令遵守や不祥事防止についての意識レベルの維持向上を図っている。

ニーズへの対応や対策については、自己評価をもとに改善を図っている。

研修等の方針や実施状況等の分析については、年度当初に方針と方向性を職員に周知し、組織的・計画的に実施できる体制を整えている。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること

質を維持している。

(記述及び理由)

学期反省や学校評価、学校評議員会等の根拠となる適切なデータや意見をもとに状況を把握し、教育活動に反映するための組織(部長会・部会)を整えている。

外部者の評価については、学校評議員による評価や意見を参考にして改善を図っているが、外部者による組織及び評価は実施していない。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。〈教育情報の公表〉

改善、向上している。

(記述及び理由)

教職員間及び保護者、一般に向けて、本校教育に関する適切な情報を、その情報内容や対象を踏まえた方法で発信しているため。

- ・入学受入方針及び教育課程の編成の一部公表→本校ホームページ、保護者説明会、幼稚園への講話
- ・研究面→ホームページに加え、年間3回発行する附属小研究だよりの配付(県内小学校全職員や教育行政機関(熊本県・熊本市)、他附属等に情報発信)

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。〈施設・設備〉

質を維持している。

(記述及び理由)

授業等におけるICT活用に対する職員の意識とスキルは高く、授業や教育活動の質的向上に有効活用がされている。また、教育後援会を中心に教育機器の整備を計画的に行い、ハード面での環境が少しずつではあるが整備されてきている。

図書司書を中心として、毎月の学級ごとの利用状況の共有化をもとにした指導が図られている。また、図書館の蔵書数も標準を満たしているとともに、ニーズを調査して必要な図書購入計画を行っている。